

# 2009年度 事業報告書

学校法人 神戸女学院



KOBE COLLEGE



学校法人 神戸女学院  
理事長・院長 森 孝一

## はじめに

神戸女学院は1875年(明治8年)に、アメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教団体「アメリカン・ボード」によって、神戸に設立されました。今年、神戸女学院は創立135周年を迎えます。

高等教育機関となった神戸女学院は1933年(昭和8年)、現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。岡田山の豊かな自然と、国の「登録有形文化財」に登録されたヴォーリズ的设计による美しい校舎群は、本学院の貴重な財産であるだけでなく、キャンパス自体が情操教育のための資産となっています。

神戸女学院の教育目標は、本学院の永久標語となっている「愛神愛隣」に表現されています。キリスト教を基本とする人格教育と情操教育を教育の中心に置き、獲得した知識と技術を、自分のためのみ用いるのではなく、社会、国家、世界のために貢献することのできるような人材を育成すること。これが神戸女学院の教育の目標です。

2010年度の事業計画として、教育・研究については、英文学科のカリキュラム改革、環境・バイオサイエンス学科の中・高理科教職課程の開設、大学院人間科学研究科の「環境リーダー育成コース」の開設と、同コースへのアジア・アフリカ地域からの留学生受け入れを実施してまいります。

施設・設備面では、キャンパスのバリアフリー化を推進し、施設・設備の長期整備計画に基づく校舎の耐震化、岡田山移転当初のヴォーリズ設計校舎の整備改修(エコ対策を含む)を順次実施してまいります。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## I. 法人の概要

1 建学の理念・教育目標	1
2 設置学校・学部・学科等	1
3 校地・校舎	2
4 入学定員・収容定員・在籍者数	4
5 役員・評議員に関する事	6
6 教職員数等に関する事	7
7 法人の沿革	9

## II. 事業の概要

1 大学総括	11
2 中高部総括	12
3 教育・研究	13
4 高大連携	17
5 地域貢献	19
6 その他の事業	21
7 施設・設備	23
8 入試に関する状況	24
9 留学に関する状況	27
10 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況	30
11 就職・進学状況等	31

## III. 財務の概要

1 2009年度決算の概要	34
2 資金収支計算書	34
3 消費収支計算書	37
4 貸借対照表	40
5 財務データの推移	42

## IV. 事業計画

1 今後の運営方針及び2010年度予算編成について	45
2 2010年度事業計画	45
3 2010年度予算書	47

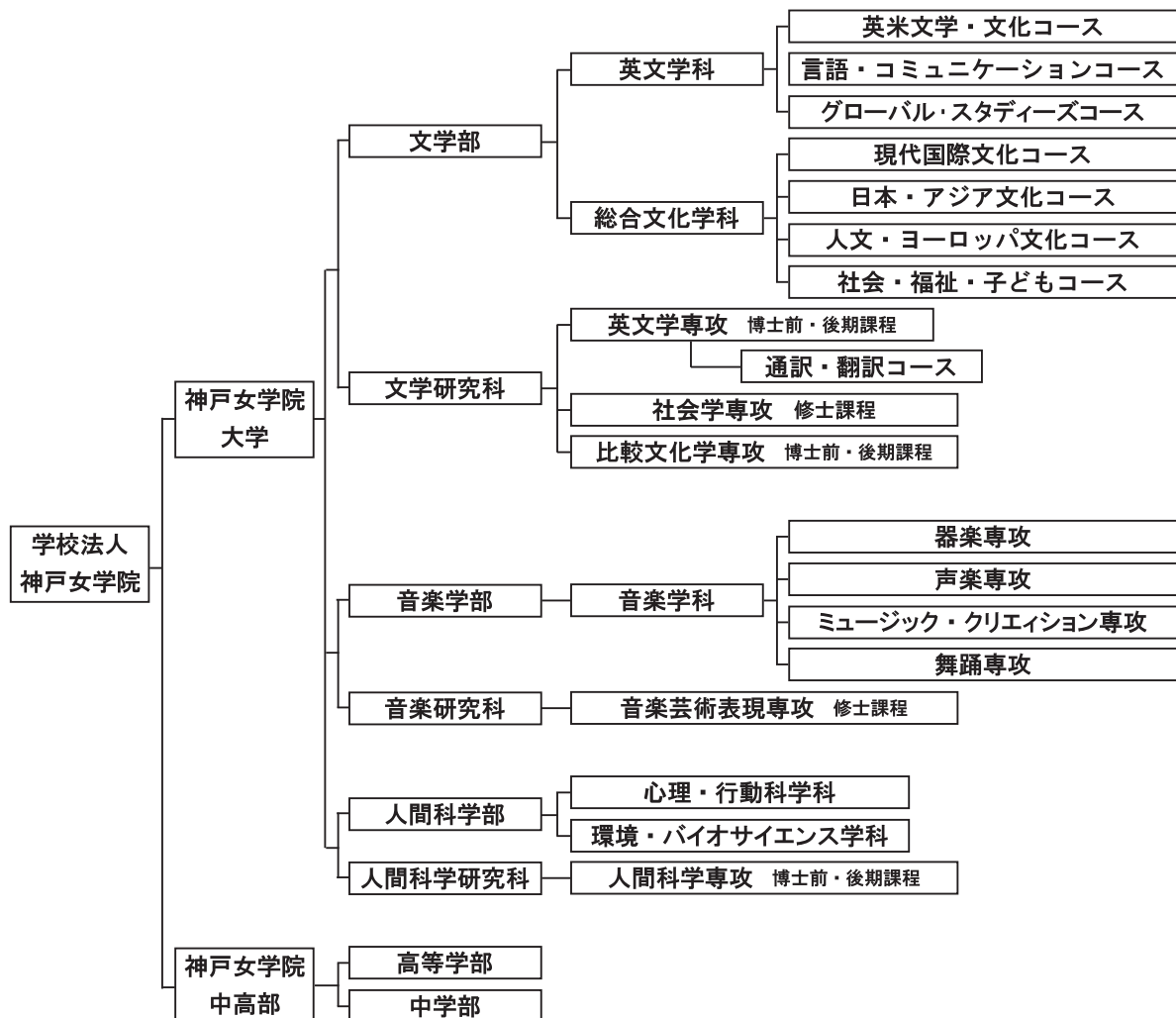
# I. 法人の概要

## 1 建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立された。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成であった。以来130余年、高い教養と専門的知識、

広い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきた。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っている。

## 2 設置学校・学部・学科等

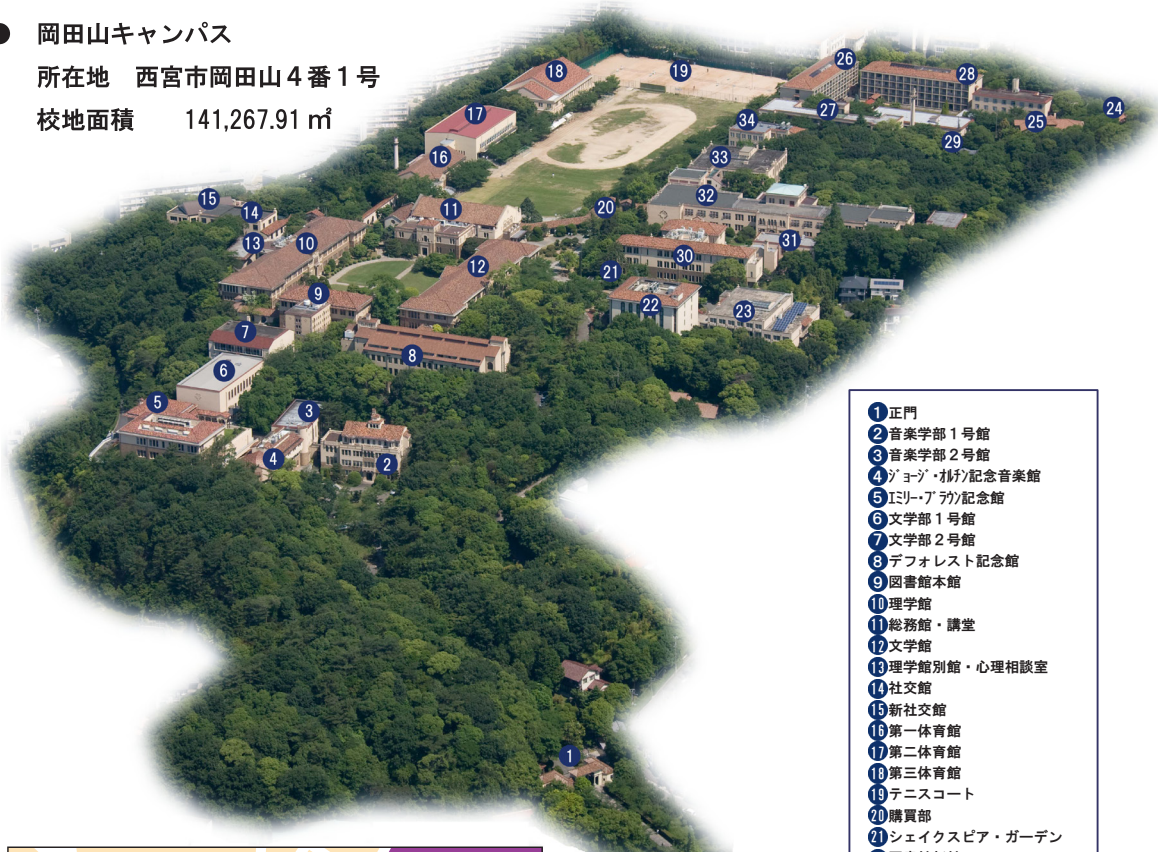


### 3 校地・校舎

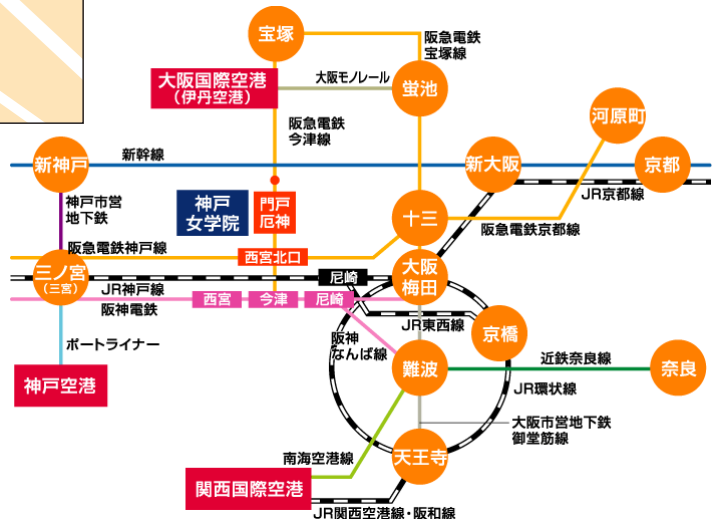
● 岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,267.91㎡



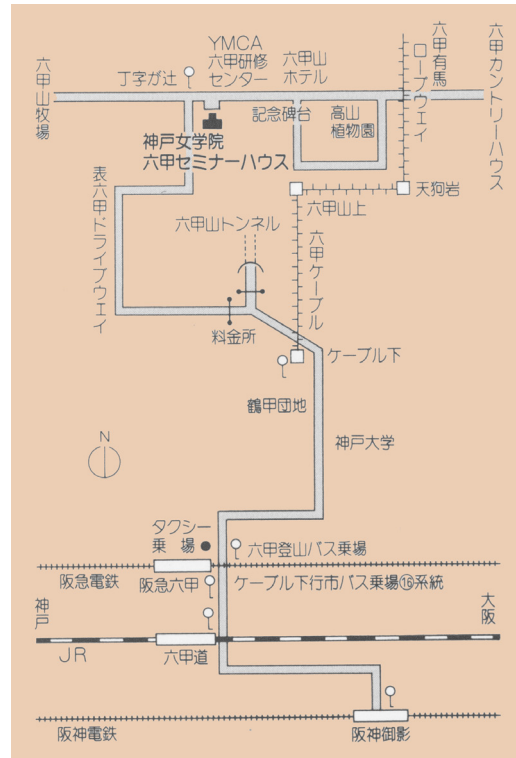
- ① 正門
- ② 音楽学部 1号館
- ③ 音楽学部 2号館
- ④ ジョージ・リッパ記念音楽館
- ⑤ エミリー・アラウ記念館
- ⑥ 文学部 1号館
- ⑦ 文学部 2号館
- ⑧ デフォレスト記念館
- ⑨ 図書館本館
- ⑩ 理学館
- ⑪ 総務館・講堂
- ⑫ 文学館
- ⑬ 理学館別館・心理相談室
- ⑭ 社交館
- ⑮ 新社交館
- ⑯ 第一体育館
- ⑰ 第二体育館
- ⑱ 第三体育館
- ⑲ テニスコート
- ⑳ 購買部
- ㉑ シェイクスピア・ガーデン
- ㉒ 図書館新館
- ㉓ ジュリア・ガッレ記念館
- ㉔ エッジウッド館(研究室)
- ㉕ ケンウッド館
- ㉖ マリア・アト・グレイ・スノウ学生寮
- ㉗ 岡田山ロッジ
- ㉘ 大学カレッジ館(クアハウス)
- ㉙ 茶室(松風庵)
- ㉚ アンジー・クルー記念館
- ㉛ コミュニケーションセンター
- ㉜ 中高部 1号館・2号館
- ㉝ タルカット記念館
- ㉞ めぐみ会館(同窓会館)



● 六甲セミナーハウス

所在地 神戸市灘区六甲山町1043-8

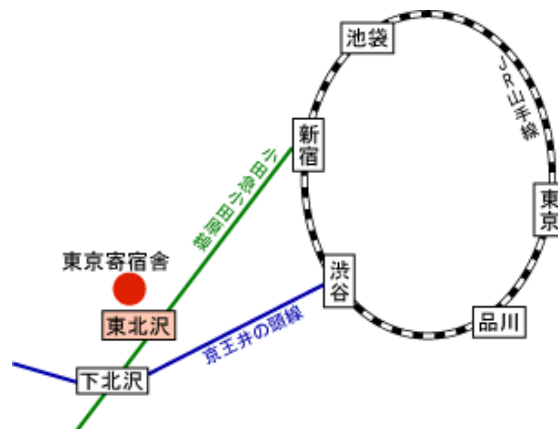
敷地面積 1,501.65 m<sup>2</sup>



● 東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8-7

敷地面積 367.46 m<sup>2</sup>



## 4 入学定員・収容定員・在籍者数

2009年5月1日現在

●神戸女学院大学		入学定員	収容定員	在籍学生数
<b>文学部</b>				
英文学科		140名	560名	716名
総合文化学科		180名	720名	935名
	計	320名	1,280名	1,651名
<b>音楽学部</b>				
音楽学科		47名	188名	213名
<b>人間科学部 (2005年度から次の2学科に改組)</b>				
心理・行動科学科		80名	320名	417名
環境・バイオサイエンス学科		80名	290名	369名
	計	160名	610名	786名
<b>人間科学部人間科学科 (2005年度学生募集停止)</b>				
人間行動科学専攻		—	—	5名
人間環境科学専攻		—	—	0名
	計	—	—	5名
	大学 計	527名	2,078名	2,655名

※2009年度より環境・バイオサイエンス学科の入学定員を70名から80名に増員

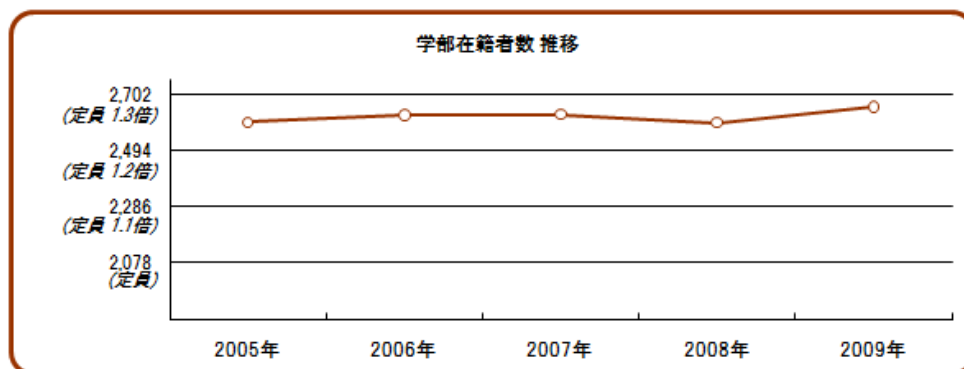
●神戸女学院大学大学院		入学定員	収容定員	在籍学生数
<b>文学研究科</b>				
英文学専攻	博士前期課程	13名	26名	13名
	博士後期課程	2名	6名	5名
社会学専攻	修士課程	5名	10名	1名
比較文化学専攻	博士前期課程	5名	10名	8名
	博士後期課程	2名	6名	10名
	計	27名	58名	37名
<b>人間科学研究科</b>				
人間科学専攻	博士前期課程	10名	20名	25名
	博士後期課程	2名	6名	1名
	計	12名	26名	26名
<b>音楽研究科</b>				
音楽芸術表現専攻	修士課程	7名	14名	14名
	大学院 計	46名	98名	77名

●神戸女学院中高部		入学定員	収容定員	在籍学生数
中学部		135名	405名	436名
高等学部	全日制課程 普通科	—	405名	440名
	中高部 計	135名	810名	876名

## ● 在籍者数推移

## 神戸女学院大学

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
文学部	1,622	1,626	1,623	1,620	1,651
音楽学部	209	215	216	214	213
人間科学部	768	783	789	764	786
計	2,599	2,624	2,628	2,598	2,655



※収容定員は2008年度までは2,068名

## 神戸女学院大学大学院・修士・博士前期課程

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
文学研究科	45	44	42	26	22
人間科学研究科	28	28	18	18	25
音楽研究科	16	13	13	15	14
計	89	85	73	59	61

## 神戸女学院大学大学院 博士後期課程

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
文学研究科	8	10	12	15	15
人間科学研究科	6	6	3	2	1
計	14	16	15	17	16

## 神戸女学院中高部

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
中学部	437	445	444	446	436
高等学部	455	463	473	433	440
計	892	908	917	879	876

## 5 役員・評議員に関すること

2009年5月1日現在

理事		定員	現員	
第1号理事	院長(理事長)	1名	1名	松澤員子
第2号理事	学長	1名	1名	飯 謙
第3号理事	中高部長	1名	1名	船橋昭
第4号理事	めぐみ会※1推薦会員で 理事会選任	3名	3名	石割初子 上紀子 伊藤良子
第5号理事	評議員会選任	2名	2名	西澤他喜衛 南徹弘
第6号理事	コーポレーション※2推薦で 理事会選任	3名	3名	伊藤栄子 古庄高 原田恵子
第7号理事	理事会選任学識経験者	4名	4名	柴谷享一郎 家近正直 森孝一 安場耕一郎
総数		15名	15名	
監 事		2名	2名	山口政紀 秋山ひさ

評議員		定員	現員	
第1号評議員	理事会選任学識経験者	11名	11名	南徹弘 富田順治 磯部卓三 松本真千子 今竹翠 高坂敬三 西澤多喜衛 吉富正夫 伊藤栄子 伊藤良子 植木龍夫
第2号評議員	めぐみ会推薦会員で 評議員会選任	8名	8名	富川浩子 田宮孝子 中野桂子 竹内多代 転法輪真理 西誠子 野木芳子 松本美耶子
第3号評議員	理事会推薦教職員で 評議員会選任	8名	8名	山本義和 原田園子 長尾ひろみ 中村徹昭 林真理子 荻欣也 東松道雄 井出敦子
第4号評議員	コーポレーション推薦で 評議員会選任	4名	4名	Ann B. CARY 菅根信彦 伊吹寛子 杉浦剛
総数		31名	31名	

※1めぐみ会…

正式名称「社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした社団法人です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2コーポレーション…

正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

## 6 教職員数等に関すること

## ● 在籍教職員数

2009年5月1日現在

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制 教員	特任 教授	客員 教授	客員 研究員	特別 客員	計
英文学科	7	5	2	0	0	1	1	0	0	16
総合文化学科	16	8	1	0	0	0	0	1	2	28
音楽学科	9	2	1	0	1	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	8	3	0	0	2	0	0	0	0	13
環境・バイオサイエンス学科	8	2	0	0	0	0	0	0	0	10
一般(体育)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	50	20	4	0	3	1	3	1	2	84

	教諭
高等学部	22
中学部	20
計	42

	専任 事務職員	専任 労務職員	契約職員 (学生寮)	計
法人	18	1	0	19
大学	44	0	2	46
中高部	6	0	0	6
計	68	1	2	71

	嘱託 事務職員	嘱託 教学職員	計
週4日	17	9	26
週3日	2	3	5
週2日	0	4	4
計	19	16	35

## ● 在籍教職員数推移

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
大学	専任教員	90	90	87	85	84
	非常勤講師	307	319	306	332	342
	大学計	397	409	393	417	426
中高	専任教員	42	40	41	41	42
	非常勤講師	20	22	23	17	19
	中高計	62	62	64	58	61
計		459	471	457	475	487

学院	専任職員※	74	75	71	73	71
	嘱託職員	38	36	33	34	35
	計	112	111	104	107	106

※契約職員含む



## 7 法人の沿革

### 1873年（明治6年）

米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。

### 1875年（明治8年）創立

山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット女史、舎監はダッドレー女史で、当初の学生数は26名（寄宿生3名、通学生23名）。

### 1879年（明治12年）

校名を「英和女学校」と定め、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。

### 1885年（明治18年）

高等科（1年）、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。

### 1891年（明治24年）

本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。

### 1894年（明治27年）

「神戸女学院（Kobe College）」と改称。名実ともにCollege（女子高等教育機関）となる。

### 1906年（明治39年）

教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。

### 1909年（明治42年）

専門学校令により「専門部（4年制）」（当時の女子高等教育の最高水準）設置認可。

### 1919年（大正8年）

専門部を「大学部」と改める。予科1年・本科3年を置く。

### 1933年（昭和8年）

西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズ博士によってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・チャペルを含む総務館などは当初の建物。

### 1948年（昭和23年）

4年制の新制大学が発足。学制改革により4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部（英文学科、社会学科、家政学科）を設置。

### 1949年（昭和24年）

新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。

### 1965年（昭和40年）

大学院文学研究科（修士課程）英文学、社会学専攻を設置。

### 1967年（昭和42年）

家政学科が独立して家政学部となる。

### 1975年（昭和50年）

「創立100周年」を迎える。

### 1976年（昭和51年）

文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。

### 1980年（昭和55年）

大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科（修士課程）に日本文学専攻を設置。

### 1989年（平成元年）

大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。

### 1990年（平成2年）

音楽専攻科を設置。

### 1993年（平成5年）

家政学部を改め、人間科学部人間科学科が設けられる。（家政学部は募集停止）

### 1997年（平成9年）

大学院人間科学研究科（修士課程）人間科学専攻を設置。

### 1999年（平成11年）

大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。

### 2000年（平成12年）

創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科（修士課程）音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化専攻に改称。

**2001年（平成13年）**

東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。

**2002年（平成14年）**

大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。

**2004年（平成16年）**

大学院文学研究科（博士前期課程）英文学専攻に通訳コースを設置。

**2005年（平成17年）**

人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置。（人間科学科は募集停止）

**2006年（平成18年）**

音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。

**2007年（平成19年）**

音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。

## Ⅱ. 事業の概要

### 1 大学総括

2009年度の学事は、4月6日の入学式に学部687名、大学院博士前期(および修士)課程32名、同後期課程5名の新生を迎えて始まり、2010年3月18日に614名に学士、25名に修士(他に論文博士1名)の学位を授与する卒業式で閉じられました。新年度開始早々、インフルエンザ流行にかかる兵庫県からの全学休講要請や2009年度入試に関する外部よりの指摘など問題が起りましたが、学院の協力を得ながら、事柄の当事者を尊重する、神戸女学院らしい解決への取り組みがなされたと感じています。本学院は、「寄附行為」に明記されているように、「キリストの教え」と「国際理解の精神」の体得を教育の目標に掲げて、解放された人間の在り方を模索、提示する教育機関であろうと努めてまいりました。これは、とりわけ、女性が社会で一人の人間としてあるがままに輝いて生きようとするとき、それに立ちふさがり、効率性や即効性を是として、女性であるよりも一人の「おとこ」となるよう求めることの多いわが国の精神的風土の中で、たいへん意義深い働きであると自負しています。私学が個性を求められる時代にあつて、本学は十分に豊かな伝統を有していますが、いま振り返りますと、2009年度は、それをいっそう深めるよう努力した歩みであったと思います。

その見えるかたちとしてあげられるのは、昨年度科学技術振興調整費の新規課題として採択された人間科学研究科の「地域からESDを推進する女性環境リーダー」というプログラムです。これはアジア諸国から女性の大学院生を特別留学生として招き、本学で用意する英語による講義とNPOにおけるインターンシップを通して、環境教育にあたる女性のリーダーの育成を目指します。このプログラムには、女性のキャリア教育、アウトリーチや臨床心理に関わる地域実践活動、遠隔同時通訳システム等、これまで本学が積み重ねてきた教育プロジェクトのノウハウが新たなかたちで生かされています。留学生諸姉はプログラム修了後は各自が所属する本国の大学院に戻り、神戸女学院で得た単位を認定されて修士号を得ますが、将来的には本学に別の論文を提出することによって本学の修士号も取得できるダブル・

ディグリーの道も考えています。それが実現しますと、やがてアジア各地で本学の卒業生が環境リーダーとして地域を生かす活動をなすということで、多方面に夢のふくらむ企画であると思い、今後の展開が期待されます。その他にも、キャリアセンターと音楽学部のプロジェクトが文部科学省の大学教育改革支援プログラムとして採択されました。それぞれに、学生の個性を生かし、あるいは地域に仕えて、全人的な解放を志す、神戸女学院らしい取り組みであると申せます。

もう一つ特筆すべきは、2006年度に音楽学部創立100年を覚えて開設された音楽学科舞踊専攻が完成年度を迎えたことです。島崎徹教授、O. モンタギュー先生、村越直子先生のお骨折りにより、素晴らしい成果を上げることができました。その記念碑とも評されるべき第4回公演が2010年3月11、12日に兵庫県立芸術文化センターで開催されました。そのステージを言葉で十分に言い表すことはできませんが、学生諸姉は、定められた同じ動作をしているようでありながら各自が独自の動きをなし、しかし協働のパフォーマンスを形成する。指示された通り機械的に反復するのではなく、それぞれが思考し、行為し、しかも配慮し合う。一人一人が個別でありつつ、しかし孤立するのではなく、互いを生かし合う——ここに、神戸女学院のリベラルアーツ&サイエンス教育の一つの到達点を見る思いでした。

最後に2010年度の入学試験について述べておきます。ご承知のように少子化の中、「地方、女子大、800人以下(小規模)」をキーワードとして、私学の苦悩が報じられています。そのすべてに該当する本学は(にもかかわらず)、入学センターを始めとする教職員の献身的な働きにより、北海道から沖縄まで(国外も含め)ほぼ昨年に並ぶ志願者を得、新年度も予想を超える入学者を見るに至りました。言うまでもなく、昨年も報告した認証評価に際する定員管理の問題には誠実に取り組んでまいります。同時に、多くの受験生が評価する本学の個性をよくわきまえ、今後もそれを深め、広く発信してゆくための議論を重ねてまいります。

## 2 中高部総括

中高部の2009年度は、4月1日の中学部1年（J1）オリエンテーションとデイキャンプによって始まり、8日の中学部入学式で143名を迎え、9日の高等学部入学式、その後の始業式で中高部全生徒が揃って学校生活がスタートしました。今年度も、中高部の本来目標とする教育活動を日々積み重ねることに、全教職員と全生徒達が共に取り組みました。

しかし、毎年、大体同じような年間計画を立てて、日々を丁寧に誠実に積み重ねようとするのですが、年によっては異変が起こるものです。2009年度は、世界的に流行したインフルエンザとは本校も無関係ではおれず、一学期は県教育委員会からの要請で一週間の学校閉鎖を余儀なくされ、例年より一週間遅れの夏休みとなりました。また二学期になるとインフルエンザは猛威をを広げ、結果として今年度は、J1は52.5%の罹患率、JS全体で平均34%の生徒が罹患しました。そのために学年閉鎖、学級閉鎖が続発し、その授業の補填を平日の放課後と学期末の休日などに行いました。

中高部の教育目標は、確実に高い学力をつける授業を縦系にし、校章の三つ葉のクローバー（身体、精神、靈魂）を育む活動を横系にして織った、豊かな綾なす一枚の布であると思っています。

縦系の授業の太い糸は、中学、高校の6年間を総合的な視野で捉えた教育プログラムを作り、優秀な生徒達に、全科目がその学年時に応じた必要な学力を着実に付け、発展的に能力を更に伸ばせる中高一貫授業です。

その太い糸に、本校の特色ある強い三本の縦系を加えています。その一本目は、中高部独自に60年以上続けているオールラウンドなコミュニケーション能力をつける Crew Method の英語教育の実践です。二本目は、かつての戦争中であっても死守し続けてきた聖書科の授業です。そして三本目の糸は、生徒個人が課題発見・探究・解決能力を目指す「探究」の授業であります。これら三本の縦系の存在は、本校の教育目標が、世間で言われている大学への高い合格率を目指すだけの進学校でないことを表しています。

また、横系として太い二本があります。それは礼



拝の時間を大切にしていることと、生徒達の活発で優秀な活動であります。創立以来続けている毎朝の礼拝の時間は、一日の最初に、ヴォーリス設計の落ち着いた荘厳な講堂で、約900名の全校生徒と全教員が一同に会し、静思の時間を共有しています。卒業生たちは、社会で100人、1000人で大声で盛り上がる時間はあるが、礼拝のように一同が心静めて内省する時間は無いと、懐かしがり残念だと口を揃えて言います。共に聖書を読み、讃美歌を歌い、話を聞き、各自が心の闇を照らされ内省し、心に光を灯す一時です。一同が、静寂の中で魂を耕し人間性を回復させる時であり、正しく生きる力を養う時でもあります。

もう一本の太い横系は、「中高部事業並びに生徒活動報告」でも分かるように、多彩な学校行事と活発な生徒活動であります。体育祭、文化祭、キャンプを始め多くの生徒主導の行事を通して、立案、計画、準備、実行し、友達との協調性、達成力を養い、成長していく姿は眩しく感動的でもあります。また個々人の文化面や運動面での能力と努力は目覚ましく、多彩な活動をしていますので、ぜひ生徒活動報告をご覧ください。それと中高部では、ボランティア活動に参加する機会が多くあり、春・秋の子供会、釜ヶ崎お握りの修養会、大阪水上隣保館修養会、長島愛生園修養会があり、来年度からは広島平和修養会も予定に加わります。

2004年度から実施された中学部の4クラス化に伴い、教室の整備などのため、2号館の立て替えを検討しています。これらは中期・長期計画に予定されていますので、どうぞご加禱下さい。

### 3 教育・研究

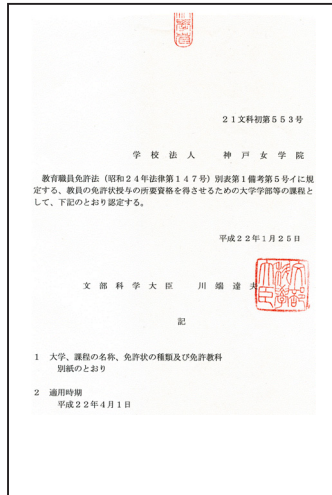
#### 理科教職課程開設

2010年4月より、人間科学部環境・バイオサイエンス学科に中学校・高等学校の「理科」教職課程を開設します。これにより、2010年度入学生から中学校教諭一種普通免許「理科」および高等学校教諭一種普通免許「理科」の取得が可能となります。理科の教員免許を取得できる女子大学は全国でも10校程度しかなく、近畿では奈良女子大学、武庫川女子大学に続いて本大学が3校目となります。

前身である人間科学人間環境科学専攻（1993年設置）の時代から、環境科学および生命科学分野の教育・研

究を展開してきた環境・バイオサイエンス学科には、中学・高等学校理科教職課程の化学および生物学等に相当する豊富な既存教科科目（講義および実習科目）があります。これに加えて、化学概論、生物学概論（以上、2010年度開講）、物理学概論（2011年度開講予定）、地学概論、地学実習（以上、2012年度開講予定）といった基礎的科目を新規に開講することで、理科の全領域にわたる教科科目を準備しました。教育原理や教育心理学などの教職科目については、既に開設されている英語、社会、音楽等の免許用科目と共通開設とすることが、本学教職センター委員会において了承されています。また、教育実習については、本学の中学部・高等学部に実習生の受け入れを受諾いただいています。

今回の理科教職課程の設置は、理系分野を中心とした本学科の女性教育の伝統を踏まえ、「自ら自然科学の楽しさを体得すると共に、子どもたちに自然科学の魅力を伝える能力を持つ女性理科教員」の必要性を認識し、その養成を目指すものです。さらに、理科の教員免許状という重みのある資格取得への道を開くことで、在学生の学習意欲を喚起するとともに、卒業後の進路の幅や進路決定の際の競争力を強



化することも目的の一つです。将来的には、卒業生が理科の教員として活躍することで、本学科の目指す女性による理科の普及、啓発という目標が達成されることを期待しています。

#### 3大学連携プロジェクト

本学音楽学部が東京音楽大学、昭和音楽大学と力を合わせて立ち上げた3大学連携プロジェクト「音大連携による教育イノベーション 音楽コミュニケーション・リーダー養成に向けて」が、文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に選定されました。この事業は、3つの音楽系大学が教育研究資源の相互補完や学生・教職員の交流、関連団体との協働を通して新しい音楽教育の基盤整備を行い、社会の様々な場で音楽活動を創造・実践できる「音楽コミュニケーション・リーダー」の養成をめざすものです。3年間（2009～2011年度）の事業期間内に、音楽系大学同士では初めての共通講座「ミュージック・コミュニケーション講座」を開設し、インターネット・ビデオ会議システムによって3大学での同時受講を実現し、教職員の意識改革、学生の交流、地方自治体・文化施設・関連団体・企業との協働を通して実社会に深く結びついた産学連携教育の道を拓くことを計画しています。



連携1年目の今年度は、共通講座新設の前段階として「トライアル講座」を3回（各大学1回）実施しました。2009年11月11日、まずは本学から「仲道郁代のコンサートの作り方」（講師はピアニスト仲道郁代）を配信し、12月2日には昭和音楽大学から「地域と共に育つアーティスト」（講師は財団法人地域創造ディレクター小澤櫻作、ヴァイオリニスト松本蘭）、2010年1月13日には東京音楽大学から「楽しい音楽会にするための3つの

ヒント」(講師はヴァイオリニスト大谷康子)が配信され、3大学の学生が相互に質問したりしました。また、2010年1月にはニューヨークでの関連会議に参加し、アメリカの音楽団体による新しい教育の方向性を調査すると共に、3大学連携プロジェクトの経過報告をする機会を得て、ネットワーク形成の端緒を得ました。さらに、これらの取組をサポートするために、音楽学部内に連携ルームを開設しました。

#### 地域からESDを推進する女性環境リーダー

人間科学研究科では、2009年度より「地域からESDを推進する女性環境リーダー」プログラムを開始しました。このプログラムでは、文部科学省の科学技術振興調整費の助成によってアジア・アフリカ諸国から女子大学院生を受け入れ、人間科学研究科の日本人大学生と共に一年間にわたって持続可能な開発のための教育(ESD)に関して実践的に学びます。修了生は、帰国後に政府や企業、NPOなどで母国に状況に即したESDを実行するためのリーダーとなることが期待されます。

プログラムでは、日本の環境問題や自然保護の経験と現状に関する日本人講師によるリレー式講義、アジアの諸大学と神戸女学院とを双方向性のインターネット会議システムで結び、各国のESDの状況を比較して学ぶライブビデオ講義、ESDや環境問題に取り組む地方自治体・NPO法人・企業での長期のインターンシップ、さらにESDの現場でのフィールドワークを行います。講義は全て英語で行われますが、必要に応じて、文学研究科通訳・翻訳コースの大学院生が実践的職業訓練(OJT)として援助します。帰国後に作成した修士論文を本学に提出し、審査の後に神戸女学院大学の修士号を授与するダブル・ディグリーの道も考えています。



初年度はプログラム実施のハード面、ソフト面での準備を行うと共に、インターネットビデオ会議システムを用いた面接により8名の留学生を選抜しました。2010年度より、いよいよ留学生を迎えてプログラムを開始します。留学生の奨学金や宿舎の確保などのサポートに関してはまだまだ未知数のことが多く、またアジアのイスラム圏からも大学院生が留学する予定ですのでこれまでにない経験が待っていることと思います。しかし、高い意欲と問題意識を持つアジアからの留学生との交流は、日本人の学生にとってかけがえのない機会を与えてくれるものと思いますので、大学や学院、同窓会の皆様方のご助力を仰ぎながら進めていきたいと考えています。

#### 平成21年度学生支援推進プログラム 「石の上にも10年」 早期離職に歯止めをかけるキャリア支援

大学生への就職支援強化など学生支援の取組みを推進する文部科学省の「学生支援推進プログラム」に本学取組《「石の上にも10年」～早期離職に歯止めをかけるキャリア支援》が採択されました。

昨今は就職活動そのものがマニュアル化・早期化し「働く」ことを主体的に考える学生が減少し、就職活動のゴールが内定獲得になり勝ちです。「仕事に就く」イメージを描かずに入社し、早期離職に結びつくケースも増え人事採用側からは学生の企業研究不足や職業観の希薄さを指摘されています。

本学ではこのような現状を踏まえ長期にわたり社会に貢献できる人材を送り出すことを目的にこのプログラムに取り組んでいます。具体的には

- ①ホームページをリニューアルし卒業生からのリアルタイムの情報提供：OGブログや「就職活動アドバイス」コラム、内定者からのアドバイスコナーを作成。
- ②卒業生による懇談会・相談会・講演会：社会で活躍する卒業生2名の講演会を実施、企業で活躍するOGを招いて懇談会を3回実施し12名のOGの協力を得ることができました。またOGアドバイザーによるエントリーシート添削・相談も実施しています。
- ③卒業生のアンケート調査：就労1年目、5年目、10年目の卒業生へのアンケート調査を行い、勤続

状況把握および企業情報収集実施。

④企業情報ツール導入：情報データ導入により資料として学生に開放し企業研究対象を拡大。

⑤学内合同企業セミナー開催：2010年2月に合同企業セミナーを実施し15社の出席を得て98名の学生が参加しました。

実際に働く先輩たちの状況を知ることにより、学生が仕事の選択、働き方、仕事に対する姿勢を学び、就職が人生の新たなスタートとなることを認識し、早期離職することなく社会人としての責任を果たせるよう今後も支援していきます。

#### 第4回音楽学部舞踊専攻公演

3月1日、12日の両日に、音楽学部音楽学科舞踊専攻開設以来、初めて、1年生から4年生全学年揃っての公演が、兵庫県芸術文化センター阪急中ホールにて行われました。今回は、島崎徹教授が全ての作品の振付を手掛けたこともあり、1月の中旬頃から準備に入り、2月に入ってからは、ほぼ毎日、朝9時から夜7時まで、EB館にて島崎教授も学生とともに汗を流しました。2月8日からは、3年生、4年生と一緒に出演していただくことになっていた、國立臺北藝術大學の学生たち7名も加わり、日本語、英語、中国語が混ざってのリハーサルとなりました。踊りという1つの共通点を持った彼らが、知っている限りの言葉を使い、またある時には身振り手振りでお互いを理解し合い、公演の成功のために努力する姿は、この様な交流を実行に移すにあたり生じた数々の苦難を忘れさせてしまうほど、見ていて気持ちよく、また彼らにとっても有意義であったようです。1年生、2年生は、舞踊専攻第1回公演の時に2人の男性ゲストダンサーと一緒に創られた“HERE WE ARE”という作品を男性抜きで踊りましたが、彼女たちの踊りに向ける情熱とその素直なエネルギーによって、決してトーンダウンすることなく、技術的にも、来年、再来年彼女たちと創作活動をしていくことに大きな期待と夢を持てるような進歩を遂げました。また今回の公演で特筆に値するのは、全学年でただ1人、デュエットを踊った2年生に対して全学生がその配役に対して文句を言わず、それぞれの役に徹したことでしょう。彼女が踊り終え楽屋の廊下に来た時に、皆が花道を



つくって出迎えたのを見た時には、言葉では言い表すことのできない幸福感を感じました。他人を輝かせるために自分を捨て石にできる、そんな人間こそが社会を豊かにするのでしょうか。2日間の公演は、両日ともほぼ満席で、来ていただいたお客様にも感動していただけたと確信しています。

#### 秋葉広島市長講演会

秋葉忠利広島市長の英語による講演が、12月9日に講堂で行われました。テーマは「核兵器のない平和な世界を目指して」。

当日の講演内容は、遠隔同時通訳システムを利用して、スイスのジュネーブ大学や広島女学院大学に同時配信され、本学大学院文学研究科通訳・翻訳コースの大学院生・卒業生が日本語に同時通訳しました。秋葉市長は核兵器がもたらす悲惨な状況や、被爆者の想いを世界中に伝えていくために、活発な平和活動を展開しておられます。

教訓を学ぶことは重要です。被爆者は死より生を選び、自らの経験を語り継ぎ、復讐を選ばず和解の道を選びました。被爆者の想いを次の世代に伝えていかねば同じことを未来の世代が繰り返してしまいます。平和記念資料館を訪れ、自分の目で資料を見て欲しい。市民の皆さんが、世界を変える力を持つ



ています、世界中の市民が一緒に手を携え、核のない世界を実現しましょうと力強いメッセージを送られました。

#### 大澤壽人遺作コレクション整理

大澤コレクションは音楽学部教授であった作曲家・指揮者大澤壽人先生（1906～1953）の自筆譜を中心とするもので、2006年8月にご子息大澤壽文氏から神戸女学院に寄贈されました。楽譜の他、演奏会プログラム・ポスター、創作ノート、書簡、録音テープ等も含まれています。

大澤先生は関西学院高等商業学部卒業後1930年に渡米、ボストン、パリで音楽を学ばれました。1936年の帰国後は神戸女学院の教壇に立ちながら多彩な作曲活動を続けていましたが、1953年47歳で急逝されました。

コレクションの整理は、音楽学部と図書館・史料室の共同事業として、生島美紀子音楽学部非常勤講師の指導の下、専門のスタッフを集めて進められて



います。2007年12月には、自作品の詳細な目録と編曲作品のリストを『煌きの軌跡—大澤壽人作品資料目録』として、音楽学部同窓会「クラブファンタジー」からの全額助成を受けて刊行しました。この目録編纂により神戸女学院は2008年度音楽クリティック・クラブ賞(特別賞)を受賞しています。

現在は2010年度内の刊行を目指して、全資料目録の編纂を行っています。これまでに自作品が約400曲、編曲が約400曲あることが分かっています。また、各資料の劣化が進んでいることから、主要なものからデジタルデータ化を進めています。オリジナルは環境を整えて保存し、デジタル版を利用に供する予定です。

大澤先生急逝の後、作品はあまり演奏されなくなりましたが、近年再評価の動きがあり演奏会でも度々取り上げられ、CDも出されています。2009年度には、大澤コレクションの自筆譜資料により「大澤壽人ピアノ曲集」(カワイ出版)が出版されました。大澤作品を中心とする音楽会も開かれ、新聞等にも度々紹介されました。

## 4 高大連携

文部科学省のすすめている高等学校と大学との接続において、一人ひとりの能力を伸ばすための高大連携施策として、本学においても出張講義（大学教授が高校に出かけ、専門分野別講義を行う）、招聘プログラム（高校生を本学に招き、授業体験、大学

生活体験を提供する）、理学館体験プログラム（人間科学部の研究室、理学館の実験室を体験することでバイオサイエンスを実感してもらう）、聴講プログラム等様々な取組を実施しています。

### ●出張講義実施状況

担当学科	件数	担当教員
文学部 英文学科	18	立石、田邊、TSUDA、長尾、McCULLOUGH
文学部 総合文化学科	1	竹中
音楽学部 音楽学科	5	斉藤、澤内、津上、中村、西
人間科学部 心理・行動科学科	9	石谷、國吉、小林（知）、水田、森永、山
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	2	高岡、山本
計	35	

### ●招聘プログラム実施状況

	実施日	担当教員	テーマ
県立西宮高等学校	8月25日	人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 西田	マウスの解剖実験 ※理学館体験プログラムの一環
	8月26日	文学部 英文学科 長尾	通訳トレーニング法を用いた英語学習
	8月27日	人間科学部 心理・行動科学科 三浦	人工知能入門 ～ゲームをするプログラム
和歌山信愛女子短期大学附属高等学校	11月13日	文学部 英文学科 McDONALD	Asking Questions in English
		人間科学部 心理・行動科学科 田島	マズローの欲求階層説から見た音楽行動
大阪女学院高等学校	12月15日	人間科学部 心理・行動科学科 水田	心の病気について
帝塚山学院高等学校	3月20日	文学部 英文学科 長尾	楽しい通訳

### ●聴講プログラム実施状況（神戸女学院高等学部対象）

		受講者数	受講科目数	合格者数
2005年度	前期	11	6	9
	後期	8	3	5
2006年度	前期	6	4	4
	後期	7	6	2
2007年度	前期	0	0	0
	後期	6	4	2
2008年度	前期	4	4	4
	後期	5	4	4
2009年度	前期	9	4	7
	後期	13	7	4

●理学館体験プログラム実施状況

	日程	担当教員	講義テーマ	参加者	
夏のオープンキャンパス	8月1日	塩見	食べないダイエットと食べるダイエット【午前】	23名	
			微生物をもっと知ろう～納豆とテンペ作りを体験しよう～【午後】	11名	
	8月2日	三宅	自然への気づき～ネイチャーアートを取り入れた体験～【午前】	19名	
			自然への気づき～ネイチャーアートを取り入れた体験～【午後】	4名	
高校教員対象サイエンス体験	8月3日	西田	細胞の染色	17名	
夏のサイエンス体験	8月4日	山本	生物が棲む水中の酸素濃度を測定してみよう	21名	
		中川	グリーンケミストリーとマイクロスケール実験／種々のマイクロスケール実験	22名	
理学館体験	8月23日	野寄 張野	学科説明・施設見学	30名	
理学館体験	9月27日	野寄 張野	学科説明・施設見学	20名	
秋のサイエンス体験	10月24日	張野	自分たちの飲み水を調べてみよう！	6名	
		中川	グリーンケミストリーとマイクロスケール実験／種々のマイクロスケール実験		
理学館体験	11月22日	野寄 張野	学科説明・施設見学	8名	
クリスマスのサイエンス体験	12月19日	遠藤	冬越し中の生き物を探そう	9名	
		高岡	生卵とゆで卵、どちらが早く消化されるでしょうか？実験で確かめてみよう	12名	
理学館体験	3月20日	野寄	学科説明・施設見学	13名	
こどもサイエンス体験教室	3月20日	野寄	どんぐりのひみつ ～ちょっぴり岡田山探検！～	21名	
模擬講義	8月25日	西田	マウスの解剖実習	26名	
高大連携	県立西宮高校	10月27日	野寄	秋の七草の生態学	7名
		11月10日	張野	限りある資源 水	11名
		11月17日	中川	環境に優しいマイクロスケール実験 ーさまざまな電池を作ろうー	7名
		10月24日	三宅	環境社会学という仕事	7名
出張講義	雲雀丘学園 1 Day College ー校内オープンキャンパス	7月4日	高岡	味覚の科学	30名
	百合学園	10月27日	山本	海の環境汚染を調べる	50名
	西舞鶴高校	12月10日	山本	海の環境汚染と食品の安全性	40名

## 5 地域貢献

春季公開講座 メンデルスゾーン生誕200年記念			
第1回	6月6日	メンデルスゾーンの世界 ～真夏の夜の夢～ (コンサート) ジュゼッペ・マリオッティ (ピアノ 徳島文理大学音楽学部長、音楽学部音楽学科非常勤講師) 佐々由佳里 (ピアノ 音楽学部音楽学科准教授) 辻井淳 (ヴァイオリン 音楽学部音楽学科准教授) 雨田一孝 (チェロ 京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師、京都市立音楽高等学校講師) 山田愛子 (メゾソプラノ 関西二期会正会員、本学音楽学部音楽学科卒業・同大学院修了) 中村健 (お話 音楽学部音楽学科教授)	434名
第2回	6月20日	メンデルスゾーン家の人々 孟 真理 (文学部総合文化学科教授)	218名
第3回	6月27日	SONGS WITHOUT WORDS 島崎 徹 (音楽学部音楽学科教授) 藤井快哉 (音楽学部音楽学科非常勤講師)	80名
			【延べ参加人数 732名】
秋季公開講座 希望の考察～日本人の忘れ物			
第1回	11月21日	希望を語る ーシャンソンを通して、そしてフランス風に 上西妙子 (文学部総合文化学科教授)	139名
第2回	11月28日	人生の帰路の希望 松橋 昭 (中高部長)	156名
第3回	12月5日	米児童文学作家 キャサリン・パターソンの<希望>の表象 吉田純子 (文学部英文学学科教授)	70名
			【延べ参加人数 365名】
大学研究所主催 講演会			
	6月12日	時間の歴史～いつから人は時間を守るのか 竹中幸史 (文学部総合文化学科准教授)	約85名
	11月20日	アーツ・マネジメントのすすめ 中尾知彦 (静岡文化芸術大学 文化政策学部芸術文化学科 大学院 文化政策研究科 准教授)	約65名
			【延べ参加人数 約150名】
女性学インスティテュート主催 特別講演会			
	6月5日	近江絹糸人権争議とクリスチャン 上野輝将 (神戸女学院大学元教授)	
			【参加人数 約170名】
女性学インスティテュート主催 連続セミナー 女性と子どもの人身売買			
第1回	6月12日	「奴隷にされない権利は保障されているか」 米田真澄 (文学部総合文化学科准教授)	
第2回	6月19日	「日本の人身売買対策の現状と課題」 吉田容子 (弁護士・立命館大学法科大学院教授)	
第3回	6月26日	「エンターテイナー、看護・介護労働者、結婚移住の女性たちの人権」 藤本伸樹 (財団法人 アジア・太平洋人権情報センター 研究員)	
第4回	7月3日	「『闇の子供たち』を読み解く」 齊藤百合子 (恵泉女学園大学人間社会学部体験学習室主任)	
			【受講者48名 平均出席33名 修了証交付28名】

女性学インスティテュート主催 学外講演会		於：西宮市大学交流センター	
第1回	10月8日	水を考える 張野宏也（人間科学部環境・バイオサイエンス学科教授）	11名
第2回	11月11日	女性のためのフィールドサイエンス体験案内ー自然に出会うイギリス小旅行ー 三宅志穂（人間科学部環境・バイオサイエンス学科准教授）	8名
			【延べ参加人数 19名】

女性学インスティテュート後援 学内報告会	
10月20日	「慰安婦問題」について 文学部総合文化学科 石川康宏ゼミ
【参加人数 約110名】	

人間科学部 体験プログラム					
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者	
兵庫県主催：まちの寺子屋師範塾	10月1日	西田	子ども感染症	7名	
	10月8日	塩見	「肥満とダイエットは体にどのような影響を与えているのか～身体の中に起こっていることまで理解しよう～」	8名	
	10月15日	遠藤	こども、虫、自然	9名	
	10月22日	高岡	科学実験で食育を推進する	8名	
シニア自然大学（大阪市）	5月13日	遠藤	昆虫のバイオロジー	40名	
	5月16日	遠藤	自然観察会	40名	
	11月18日	高岡	精進料理のおいしさ	50名	
	1月28日	高岡	だし汁のおいしさ	50名	
	2月24日	山本	海の重金属汚染と食品の安全性	30名	
現代GPイベント	8月3日	遠藤	わくわく！ぶんぶん！ハチミツ採集	10名	
	12月5日	遠藤	親子で収穫体験懇話会	20名	
日本科学教育学会「科学教育研究セミナー」招待講演	8月26日	三宅	環境学習支援コミュニティの形成プロセス	70名	
理科／環境教育助成（日産科学振興財団）KCH	8月31日	中川	マイクロスケール実験とルシャトリエの法則／いろいろな電池	11名	
京丹後市「みなと大浜～夕日ヶ浦ウォーキング」	10月18日	遠藤	箱石浜の蜘蛛と蜂の話	40名	
京都教育大学公開講座「環境問題を配慮した新しい理科実験」	11月28日	中川	マイクロスケール実験とルシャトリエの法則	10名	
近畿大学里山プロジェクトの講師	1月9日	山本	みんなで都市河川を復活させる	180名	
西宮市主催：環境まちづくりフォーラム	2月27日	遠藤 山本	ポスターセッション	200名	
大阪市立環境学習センター主催「水に関する連続講座」の講師	2月27日	山本	現代の公害問題～京都府舞鶴湾の鉛汚染～	50名	
武庫川フォーラムのコメントーター（宝塚男女共同参画センター）	2月20日	山本	アユが遡上する武庫川づくり	60名	
	3月6日	山本	武庫川の水質	50名	
西宮市立甲東小学校3年 総合学習「調べよう甲東の自然」学習支援	7月13日	野寄	自然観察指導（西宮市上甲東園門戸天神社）	170名	
	3月3日	野寄	自然観察指導（西宮市上甲東園門戸天神社）	170名	
大学院セミナー（司会）	第20回	6月10日	遠藤	森林生態系の炭素循環-土壌呼吸の特性とメカニズム-(講師：大橋瑞江氏)	26名
	第21回	6月18日	遠藤	地域と人とまちとみどり(講師：林まゆみ氏)	12名
	第22回	7月8日	三宅	子どもたちの科学の「学び」を育てる学習環境のデザイン-ITを活用した授業実践を事例として-(講師：竹中真希子氏)	12名
	第24回	9月15日	張野	海洋環境保全学(講師：大地まどか氏)	22名
	第26回	11月4日	山本	若狭湾潜水日記-魚の目から見た温暖化とクラゲ問題-(講師：益田玲爾氏)	86名
	第27回	12月3日	塩見	動物の細胞を育てる(講師：山地秀樹氏)	15名
	第28回	12月10日	寺嶋	江戸時代に白川郷の人々は何を食べていたか-西洋の影響を受けていない日本人の知恵から学ぶ-(講師：馬路明子)	40名
	第29回	12月15日	西田	種を越えて保存されている糖鎖の働き-シヨウジョウバエモデルから、ES細胞、ヒト疾病の理解へ-(講師：西原祥子氏)	35名
	第30回	1月25日	高岡	管理栄養士から研究者への方向転換-ヒトの出会いが人生を変える-(講師：山岸あづみ氏)	16名

## 6 その他の事業

	学 院	大 学
4月	新任教職員就任式	入学式、入寮式 フレッシュマンキャンプ（六甲セミナーハウス、ウェスティンホテル淡路、南淡路ロイヤルホテル）
5月	創立者記念日墓前礼拝	ワイオミング大学オナープログラム（本学）
6月		保護者懇談会（本学・名古屋） 音楽学部サマーコンサート（本学）
7月	学院リトリート	保護者懇談会（福井） 子どものためのセタコンサート（本学） 音楽学部夏期講習会（本学）
8月		夏のオープンキャンパス 夏期語学研修（サンシャイン・コースト大学、サセックス大学、カリフォルニア大学アーバイン校）
9月		保護者懇談会（本学） 保護者のための就職セミナー（本学） Young Asian Women's Leadership Forum（ミリアム大学）
10月	愛校バザー	音楽学部オータムコンサート（本学） 子どものためのオルガン・コンサート（本学）
11月	宗教強調週間	バージニア洋上大学 音楽研究科「音の饗宴」（宝塚ベガホール）
12月	クリスマス礼拝	音楽学部定期演奏会（兵庫県立芸術文化センター） 音楽学部舞踊専攻卒業公演（芦屋ルナホール） クリスマスオープンキャンパス
1月		
2月		音楽学部卒業演奏会（本学） 春期語学研修（クイーンズランド大学、ヨーク大学）
3月		学位記授与式 春のオープンキャンパス

	中高部	中高部 生徒の活動
4月	J1オリエンテーション J1デイキャンプ(1)(2) 留学生オリエンテーション 中学部入学式、高等学部入学式 宗教部主催修養会(水上隣保館訪問) PTA総会 芸術鑑賞会 春の遠足 春の子ども会(S自治会・関学共催)	第11回ドリムカップ阪神交流会[下位トーナメント](2009年3月): 第2位(J3生12名、J2生1名) 兵庫県高等学校体育連盟阪神地区バレーボール春季リーグ戦7部:7部1位 6部昇格(S2生3名、S1生7名) 第24回成田山全国読書大会:成田山賞(S2生)
5月	聖書を学ぶ会(6、1、2月の計4回) PTA岡田山散策会 教育実習	全国選抜ジュニアテニス選手権兼ワールドジュニアテニス世界大会代表選考会出場(J2生) 国際哲学オリンピックコンクールフィンランド大会出場(S2生)
6月	体育祭 人権学習会 PTA教養講座 防災訓練	兵庫県私立中学・高等学校連合会英語教育研究会主催第5回英語レシテーション及びスピーチ・コンテスト:高校第2位(S2生)、中学第1位・2位(J3生各1名)
7月	JS校内大会 リーダーシップトレーニングキャンプ 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎) 宗教部主催修養会(長島愛生園)	兵庫県2009年度マロニエ賞表彰(S2生) 平成21年度兵庫県中学校春季テニス大会:第3位(J3生9名、J2生1名) 第36回全国中学生テニス選手権大会関西地区予選[団体戦]:第5位(J3生9名、J2生1名) 第6回中部大学イングリッシュプレゼンテーションコンテスト:第1位・第3位(S2生各1名)
8月	夏山登山	ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権'09[シングルス]:第3位(J2生) 第59回阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト:第3位(S2生4名、S1生1名) 兵庫県合唱コンクール[高等学校の部]:銀賞(S2生1名、S1生7名)
9月	教職員研修会 文化祭	第11回全国高校生英語スピーチコンテスト[関西第2地区大会]:第2位(S2生)
10月	S2修学旅行、J3小旅行 S1一泊研修 J1、J2、S3遠足	第58回チャーター杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会[西日本地区]:第2位(S2生...全国大会出場) 高円宮杯第61回全日本中学校英語弁論大会[兵庫県大会]:第2位(J3生...全国大会出場) JOCジュニア作文オリンピック2009:オリンピアン賞(S1生) 第22回姫路獨協大学高校生英語スピーチコンテスト:第3位(S2生) 杏林大学外国語学部第5回論文・翻訳コンテスト[翻訳部門]:奨励賞(S1生) 第37回兵庫県私立学校読書感想文コンクール:特選(S2生2名、J2生1名)・入選(S2生1名、J2生2名)
11月	中学部学校説明会 宗教強調週間 PTA宗教講話 人権学習会 キャンパス見学会 秋の子ども会	第24回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト阪神大会:第3位(S1生) 第17回薫英杯中学生英語スピーチコンテスト:第3位(J3生) 第26回茨木市国際親善都市協会英語スピーチ大会[高校生の部]:第3位(S2生) 第44回近畿地区中学校英語暗誦大会:第2位(J3生) 第42回私学の書展:特選(S2生) 第6回兵庫県中学校新人テニス競技大会[学校対抗の部]:団体3位(J2生7名、J1生3名) 第10回正筆会全国学生公募誌上展:兵庫県教育委員会賞・神戸新聞社賞(J3生各1名) 第29回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門:府県対抗戦団体優勝、個人戦3位(S1生)
12月	PTAクリスマス礼拝 クリスマス礼拝 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎)	第8回鳳凰杯全国中学生英語スピーチコンテスト:佳作(J3生) 第48回全国高等学校生徒英作文コンテスト[1年の部]:優良賞(S1生)、入選(S1生2名) 税に関する書道(西宮納税貯蓄組合連合会):西宮納税貯蓄組合連合会会長賞(J2生、J1生) 第55回青少年読書感想文兵庫県コンクール:兵庫県教育委員会賞(S2生)、兵庫県学校図書館協議会賞(S2生)、佳作(J2生)
1月	文化スポーツ賞・部長賞表彰式 中学部入試	第21回上野学園ゴードンストーン英語コンテスト:第1位(J3生...英国ゴードンストーン・スクールの国際夏期学校(スコットランド)に派遣) 2009西宮市民テニス大会中学生の部[シングルス]:優勝(J2生)、第2位(J1生)
2月	人権学習会	2009西宮市民テニス大会中学生の部[ダブルス]:優勝(J2生) 第55回青少年読書感想文全国コンクール:文部科学大臣奨励賞(S2生)
3月	高等学部卒業式 PTA常任幹事会 讃美歌コンクール 中学部卒業式	第18回国際哲学オリンピック[国内予選]:金賞(S1生...5月下旬アテネ国際哲学オリンピック出場)、銀賞(S1生2名)、銅賞(J3生) 第2回田辺聖子文学館ジュニア文学賞[小説部門]:佳作(J3生)

## 7 施設・設備

### スロープ設置

----- 6,014 千円

車椅子使用者が文学部1・2号館等を利用する際に、スロープがないため介護者が必要でした。学内のバリアフリー化の一環として今回新たに、緑地帯を一部改修し、車椅子が利用可能なスロープを設置しました。



### 岡田山ロッジピアノ練習室増設

----- 6,720 千円

学生寮に住居する音楽学部の学生のピアノ練習室が4室であったため、練習室の不足から増設の要望が以前からありました。そのため、現在使用していない洗面所・トイレを改造し、新たに2室の練習室を増設しました。

### 学生寮台所給湯器・コンロ更新

----- 3,022 千円

震災後竣工した学生寮は、自炊のため台所の使用頻度が高く、以前から機器の修理を重ねておりました。今回全ての台所の給湯器・コンロを取替えました。

### 第一体育館耐震補強・サッシ改修

----- 95,797 千円

建物の耐震性能の強化を図るため、今回は第一体育館耐震補強工事を実施しました。工事に併せて屋根瓦葺替え・サッシの取替・内外壁塗装・トイレ改修・火災報知設備の設置等も行いました。今回の工事の結果、より安全な校舎に生まれ変わりました。

### 登録有形文化財

1933年竣工した神戸女学院岡田山キャンパスの校舎のうち、講堂・ソールチャペル・総務館、図書館、文学館、理学館、音楽学部1号館の5棟が登録有形文化財建造物に登録されました。これらの5棟は、BELCA賞の受賞、西宮市都市景観形成建築物の指定に続いての登録となりました。

### 文学館空調設備改修

----- 36,223 千円

1933年から使用してきた床置きスチーム暖房機の配管や、天井設置の冷房機本体が経年劣化による腐食が多岐に見られ、近年漏水等が増えてきました。そのため、冷房・暖房を兼ねた機器の設置や配管の更新を行いました。また、今回の工事に併せて、館内に火災報知機設備や放送設備も設置しました。



### 中高部1号館北側壁面塗装・サッシ改修

----- 18,808 千円

年次計画でサッシの取替え工事を実施しており、今回は3階の音楽教室を主に行いました。また、今回の工事に併せて、北面・東面の外壁塗装や屋上パラペット部の防水工事も行いました。

## 8 入試に関する状況

### ● 神戸女学院大学

#### [2010年度入試概況]

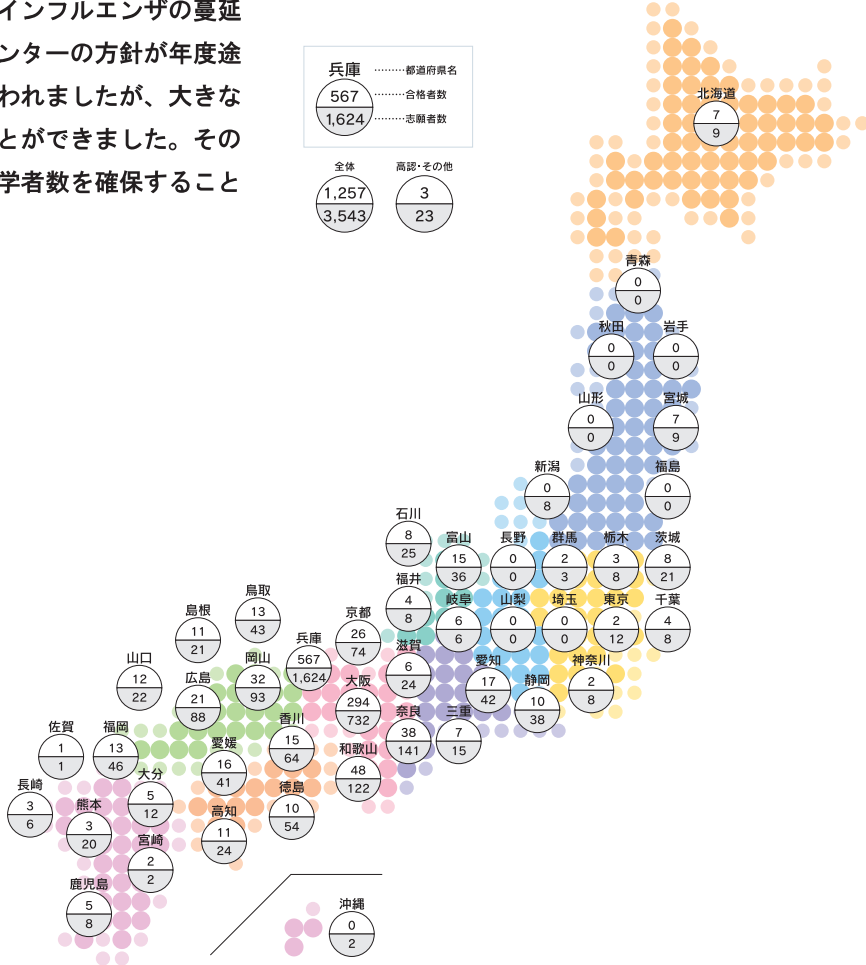
一般入試前期日程にA・B・C・D日程（試験日自由選択制・複数日程、複数学科併願受験可能）を採用して3年目となります。私大離れ、国公立大学志向の高まりの中、近隣大学が志願者数を大きく減らす傾向にあっても、昨年比98.1%の志願者を得ることができました。入試制度改革としては、A日程「国語」問題を古文必修とし、D日程（センタープラス方式）の本学「英語」の配点割合を増やしました。今年度の入試は全国的な新型インフルエンザの蔓延により、文科省、大学入試センターの方針が年度途中で示されるなど、対応に追われましたが、大きな混乱もなく入試を実施することができました。その結果、今年度も想定以上の入学者数を確保することができました。

### オープンキャンパスほか学校見学会 来場者数

開催日	名称	人数
8月1日	夏のオープンキャンパス	849
8月2日	夏のオープンキャンパス	1,149
8月22日	AO入試相談会	145
10月3日	公募制推薦説明会	269
11月28日	一般入試過去問特別講座	99
12月16日	クリスマスオープンキャンパス	222
3月20日	春のオープンキャンパス	354
総計		3,087

※注）当初5/23実施予定であった”資料頒布会”は、新型インフルエンザの影響につき、中止

### 都道府県別志願者数・合格者数



### 学外進学相談会 参画会場数

地区	対面	資料のみ	計
北海道	2	1	3
宮城	0	1	1
富山	2	0	2
石川	3	2	5
長野	0	1	1
岐阜	0	1	1
静岡	5	2	7
名古屋	2	3	5
三重	0	2	2
滋賀	2	0	2
京都	1	2	3
大阪	17	6	23
兵庫	24	2	26
奈良	0	2	2
和歌山	0	2	2
鳥取	1	1	2
島根	1	1	2
岡山	4	0	4
広島	4	1	5
徳島	4	1	5
香川	4	2	6
愛媛	0	2	2
高知	1	1	2
福岡	2	1	3
長崎	1	0	1
総計	80	37	117

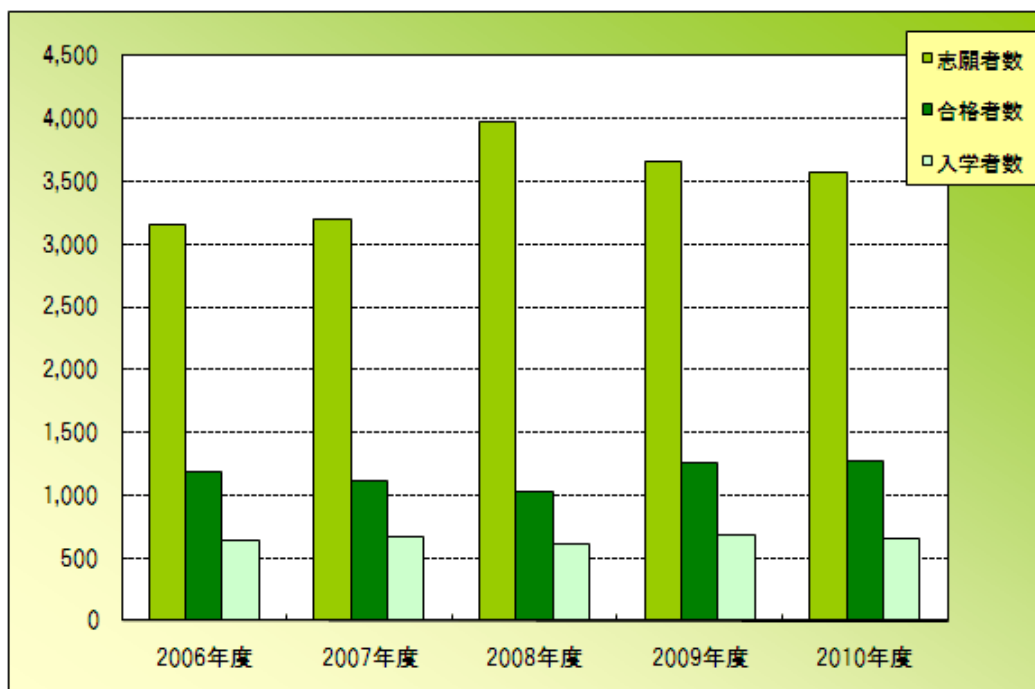
都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数
北海道	12	埼玉	1	岐阜	16	鳥取	15	佐賀	2
青森	0	千葉	2	静岡	14	島根	9	長崎	10
岩手	0	東京	5	愛知	39	岡山	74	熊本	6
宮城	3	神奈川	6	三重	14	広島	34	大分	5
秋田	0	新潟	2	滋賀	13	山口	20	宮崎	7
山形	0	富山	7	京都	86	徳島	22	鹿児島	4
福島	2	石川	9	大阪	749	香川	31	沖縄	0
茨城	11	福井	18	兵庫	1148	愛媛	24		
栃木	5	山梨	1	奈良	82	高知	18	その他	24
群馬	5	長野	3	和歌山	78	福岡	28	総計	2,664

## 入試制度別状況

	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験前期A日程	744	736	273	2.7
一般入学試験前期B日程	679	664	231	2.9
一般入学試験前期C日程	473	314	73	4.3
一般入学試験前期D日程	センター1科目型	205	85	2.4
	センター2科目型	174	96	2.5
大学入試センター試験を利用する入学試験	3科目型	247	247	2.8
	5科目型	65	65	2.2
一般入学試験後期日程	147	140	28	5.0
公募制推薦入学試験	302	298	98	3.0
AO入学試験	98	98	31	3.2
帰国子女入学選考試験	3	2	1	
社会人入学試験	2	2	1	
外国人留学生入学試験	1	1	0	
編入学試験	7	7	2	

\* 指定校制推薦入学試験は除外

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
志願者数	3,158	3,204	3,969	3,660	3,573
合格者数	1,190	1,120	1,028	1,253	1,278
入学者数	644	672	615	687	651



● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
志願者数	77	53	44	64	55
合格者数	36	27	25	36	35
入学者数	34	24	24	32	32

博士後期課程

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
志願者数	7	4	7	5	2
合格者数	5	3	6	5	2
入学者数	5	3	6	5	2

● 神戸女学院中高部

中学部

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
志願者数	282	315	272	278	257
合格者数	169	155	155	158	157
入学者数	152	145	150	143	144

高等学部 全日制課程 普通科

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
志願者数	4	4	0	0	募集なし
合格者数	2	3	0	0	—
入学者数	2	1	0	0	—

## 9 留学に関する状況

### ● 神戸女学院大学・大学院

#### [2009年度留学概況]

創立以来、本学の教育の根幹である「国際理解の精神」を学生たちに理解してもらうために、2009年度も「学生の海外派遣」・「留学生の本学受入れ」を中心として様々な国際交流事業を展開しました。

「留学生の本学受入れ」のためには、昨今、受入れ環境（履修科目・生活面のサポート）の整備の重要性が従来にも増して高まっています。そのため、2009年度前期より、主として外国人留学生を対象に、茶道や華道、書道、能楽、武道などの日本文化を学ぶ「Introduction to Japanese Culture」および日本の現代事情を学ぶ「Current Issues in Japan」の2科目が国際交流センター主導で開講されました。どちらも英語で講義が行われ、本学の学生も履修することができます。また、生活面では、本学学生が交換留学生をサポートする「留学生バディ制度」（2008年度前期より導入）には今年度も多くの本学学生が参加しました。同制度によって、初めて日本に来た外国人留学生は適切な生活・学習サポートを受けることが可能になっています。

また今年もワイオミング大学オナープログラム（参加者12名、引率教員1名）を受け入れました。一行は5月14日～6月4日の22日間、本学キャンパス内のケンウッド館に滞在しながら、本学教員による特別講義や一般講義（ともに英語で実施）を受講しましたが、講義や週末ホームステイ、歓送迎会等を通して本学学生や教員との交流が深まり、双方にとって非常に有意義でした。

「学生の海外派遣」においては「派遣留学・認定留学」「中期英語留学」「春期・夏期語学研修」という3つのレベルがありますが、近年、学生の英語力の多様化が進み、語学面でのサポートを必要とする学生も増えてきています。そうしたニーズに応えるため、2009年度も留学準備を目的とした「留学対策講座」（課外講座、前後期各1シリーズ約10回）、TOEIC Preparation（ACクラス）を開講しま

した。受講した学生ほぼ全員がTOEFLスコアを20～30点アップさせるなど、顕著な効果が確認されています。更に、「国際交流フェア」を2008年度に引き続いて実施し、本学学生全般の国際交流への関心を喚起することに努めました。

学生の派遣留学先についても適宜開拓を進めています。新たに交換留学協定を締結したミリアム大学（フィリピン）、徳成女子大学（韓国）とは2010年度より交換留学が実施される予定です。

この他、ミリアム大学で10月18日～25日に開催された「第1回 YOUNG ASIAN WOMEN'S LEADERSHIP FORUM」に本学の学生2名が参加し、アジア各国の女子大学生達と共に、アジアにおける女性のリーダーシップの役割や在り方を議論する貴重な機会となりました。兵庫県国際交流協会主催の兵庫国際サマースクール（アジア若者塾、8月3日～23日）には本学から学生3人が参加し、アジア太平洋地域から招聘された外国人学生や自治体職員、県内他大学の学生らと合宿形式で国際問題について学習・ディスカッション（全て英語）を行い、異文化理解を深めました。本学学生の受講レポートはいずれも講師陣から非常に高い評価を得ています。また同協会を通じてバージニア洋上大学（米国バージニア大学が主催する、船で世界各国を訪問しながら船上で講義を受講する洋上大学）にも本学学生が1名、11月11日～24日の間、派遣学生として乗船し、日本や日本文化の紹介を行うなど米国人学生との活発な交流を行いました。

また先に述べた通り、学生の英語力・ニーズが多様化している現状を踏まえて、2010年度には新たに米国・オーストラリアにおける「中期海外研修」を導入する予定です。

今後も「海外派遣」「留学生受入れ」プログラムの改善を重ね、より多くの、良質な国際交流事業を展開することによって、「国際理解の精神」を学生たちに体得してもらいたいと考えています。

本学から海外へ

プログラム	大学名	国名	人数	期間
派遣留学	ワイオミング大学	アメリカ	2	1年
	サンシャインコースト大学	オーストラリア	2	1年
	梨花女子大学	韓国	2	1年
	広東外語外貿大学	中国	1	1年
	国別集計	アメリカ	2	
		オーストラリア	2	
韓国		2		
中国		1		
長期派遣	計		7	

	大学名	国名	人数	期間
認定留学	ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校	イギリス	4	1年
	ニューカッスル大学	イギリス	1	1年
	梨花女子大学	韓国	1	1年
	国別集計	イギリス	5	
		韓国	1	
	計		6	

	大学名	国名	人数	期間
中期英語留学	チャタム大学	アメリカ	11	7ヵ月
	計		11	

	大学名	国名	人数
語学研修	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	7
	夏期：サンシャインコースト大学	オーストラリア	18
	夏期：サセックス大学	イギリス	14
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	16
	春期：ヨーク大学	イギリス	10
	国別集計	アメリカ	7
		オーストラリア	34
		イギリス	24
	計		65

本学から海外へ	総計	89
---------	----	----

## 海外から本学へ

プログラム	大学名	国名	人数	期間	備考
交換留学	サンシャインコースト大学	オーストラリア	2		総合文化学科 2名
	梨花女子大学	韓国	2		総合文化学科 2名
	広東外語外貿大学	中国	1		文学研究科 1名
私費留学		中国	1	5年	文学研究科 1名
		台湾	1	3年	文学研究科 1名
		中国	1	4年	心理・行動科学科 1名
		韓国	1	4年	総合文化学科 1名
長期受入	国別集計	中国	3		
		台湾	1		
		韓国	3		
		オーストラリア	2		
	計		9		

	大学名	国名	人数	期間	備考
オナープログラム	ワイオミング大学	アメリカ	12	22日間	
短期受入	計		12		

海外から本学へ	総計	21		
---------	----	----	--	--

2009年度  
ワイオミング大学オナープログラム  
(エミリー・ブラウン記念館めじらウンジでの送別会の様子)



## ● 神戸女学院高等学部

## 本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数	期間
公認留学	リンカーンハイスクール	アメリカ	1	1年
	エイジャックスハイスクール	カナダ	1	1年
	計		2	

## 海外から本学へ

国名	人数	期間
オーストラリア	1	3ヶ月
ドイツ	1	1年
タイ	1	1年
計	3	

## 10 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

### ● 神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部				計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	人間科学科		心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	
				人間行動科学専攻	人間環境科学専攻			
2005年	164	210	52	79	86	—	—	591
2006年	171	243	50	101	93	—	—	658
2007年	158	224	49	108	82	—	—	621
2008年	164	228	49	8	—	78	91	618
2009年	147	218	55	2	—	109	83	614

※2008年度（人間科学部）からは学科改編後の卒業生数、2009年度については前期末卒業を含まない

### ● 神戸女学院大学大学院

#### 修士・博士前期課程

	文学研究科				音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	日本文化学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2005年	9	4		6	9	10	38
2006年	7	1		3	7	16	34
2007年	10	2		6	6	12	36
2008年	7	2		4	7	6	26
2009年	2	—		4	7	12	25

※2009年度については前期末卒業を含まない

#### 博士後期課程

##### 博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	人間科学専攻	
2005年	1	1	—	2
2006年	—	1	2	3
2007年	2	—	1	3
2008年	3	2	1	6
2009年	1	4	—	5
博士後期課程設置当初からの累計				4

##### 博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	人間科学専攻	
2005年	—	—	—	—
2006年	—	—	3	3
2007年	—	—	1	1
2008年	—	—	—	—
2009年	—	—	1	1
博士後期課程設置当初からの累計				4

### ● 神戸女学院中高部

	中学部
2005年	142
2006年	145
2007年	147
2008年	152
2009年	142

	高等学部
2005年	132
2006年	133
2007年	183
2008年	141
2009年	138

## 11 就職・進学状況等

## ● 神戸女学院大学

## 〔2009年度就職概況〕

2009年度は「就職氷河期」の再来もしくはそれ以上といわれる厳しい新卒採用状況となり、昨年は98.4%と非常に好調であった本学学生の就職内定率（決定者／就職希望者）も昨年比10%近く下回りました。決定先業種は例年通り銀行を中心とした金融がトップを占め、卸売・小売、製造、サービス業と、業種別の大きな変化はみられませんが、過年度と比較し若干ですが公務員、学校事務職、病院事務職、法律事務職が増加しています。

企業が採用数を絞り込む中で、文系女子学生の希望が多い事務系職種募集の減少が本学学生にも大きな影響を与え、特に秋以降学生の希望に副った求人業界・職種の激減により苦戦を強いられる結果となりました。5月～6月で内定が出なかった学生は就職活動の長期化を余儀なくされ、秋には卒論完成に向けての勉強との両立は困難との判断から一時的に就職活動を中断する学生も少なくない状況でした。

2009年度生はマスコミ等の報道により厳しい就職状況を認識の上でのスタートとなり、危機感から学内でのガイダンス・セミナー等の参加者数も昨年を上回る結果となりました。キャリアセンターでも6月以降、就職活動継続学生への支援プログラムを増やし応援セミナー、グループ面談、個別の面接練習等の実施、また10月にはこの時期初めて学内での4年生対象合同企業セミナーを開催し支援強化を図りました。

企業の採用数減少に伴う「厳選採用」で選考基準が上げられエントリーシートや筆記テストのハードルが

高くなり、面接にまで容易に到達できずに就職活動の第一関門突破のむずかしさを認識させる状況でした。企業からは面接に進んでも企業研究不足や明確な志望動機が欠如している学生が多いという声も聞かれ、今後は企業との「出会い」の機会を増やすこと、業界・企業研究を含めたより明確な職業観の形成に向けて学生の支援強化の検討が急がれます。

## ● 3年生対象キャリア支援プログラム実施状況

就職ガイダンス	
6月19日(金)	就職活動概要／年間スケジュール
7月10日(金)	自己分析－就職活動の壁の乗り越え方
9月25日(金)	情報収集のしかた
10月16日(金)	業界研究・職種研究
1月22日(金)	直前対策／面接・内定

就職セミナー	
9月24日(木)	就職マナー講座
10月 9日(金)	新聞の読み方
10月30日(金)	業界研究(1) 新聞
11月 6日(金)	業界研究(2) マスコミ
11月20日(金)	履歴書・エントリーシートの書き方
11月27日(金)	人事採用担当者からのアドバイス
12月 4日(金)	業界研究(3) 製造
12月11日(金)	業界研究(4) 商社
12月12日(土)	SPI対策講座
12月16日(水)	業界研究(5) 金融
12月22日(火)	業界研究(6) 金融
1月 8日(金)	面接対策講座

その他	
適性テスト 6月12日(金) 適性テストフォローアップ講座 7月17日(金)	就職模擬試験(SPI・適性テスト)…有料 10月～11月 自宅受験(含むWEB)
夏期集中就職対策講座 ①「自己分析ワークショップ」8月3日(月)4日(火) ②「グループディスカッション実践講座」7月30日(木) ③「SPI対策講座」8月5日(水)～7日(金) ④「就職文章カアアップ講座」9月14日(月)～16日(水) ③④は有料	冬期就職対策講座 ①「面接実践対策講座(1)」12月19日(土) ②「エントリーシート直前対策講座」12月24日(木) ①②とも有料
学内企業セミナー 2月1日(月)～10日(水) 36社参加	学内合同企業セミナー 2月15日(月) 15社参加
就職活動体験報告会 11月中 昼休み毎日	「面接実践対策講座(2)」 2月22日(月)、23日(火)…有料
個別相談、エントリーシート・履歴書添削は随時キャリアセンター職員が対応	

●他学年対象キャリア支援プログラム実施状況

4年生対象	
6月 3日(水)	就職ガイダンス「もう1度就活チェック」
6~8月	就活応援セミナー
10月17日(土)	学内合同企業セミナー 10社参加
2年生対象	
7月17日(金)	キャリアガイダンス
1年生対象	
6月 5日(金)	キャリアガイダンス 「大人社会への入口をさがす」
6月27日(土)	進路発見のための適性検査
7月17日(金)	適性検査フォローアップガイダンス

その他
エアラインセミナー 5月29日 秘書技能検定講座 2級・準1級 春期・秋期2回実施 TOEIC 対策講座 夏期・春期集中講座2回実施 公務員受験対策講座 夏期・春期集中講座2回実施

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
卒業生数	585	652	613	606	614
希望者数	431	547	530	493	504
決定者数	423	541	524	485	446
進学者数	37	23	26	31	36

※前期末卒業を含まない

主な就職先(2009年度)

企業名	企業名	企業名
日本生命保険相互会社	東京海上日動火災保険(株)	(株)池田銀行
(株)三井住友銀行	みずほ証券(株)	大阪市信用金庫
みずほフィナンシャルグループ	医療法人伯鳳会 赤穂中央病院	(株)かんぽ生命保険
(株)紀陽銀行	朝日奈特許事務所	神戸信用金庫
明治安田生命保険相互会社	(株)トリニティアーツ	大和証券(株)
(株)エーエヌエースカイバル	エティハド航空	西兵庫信用金庫
(株)三菱東京UFJ銀行	全日本空輸(株)	播州信用金庫
郵便局(株)	青山商事(株)	(株)百十四銀行
りそなグループ	伊丹産業(株)	兵庫信用金庫
昭和住宅(株)	兵庫トヨタ自動車(株)	富士火災海上保険(株)
日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	富士ゼロックス大阪(株)	(株)山口銀行
(株)JALエクスプレス	(株)ヨドバシカメラ	医療法人尚和会 宝塚第一病院
あいおい損害保険(株)	(株)レリアン	(株)韓進インターナショナル ジャパン
アメリカンファミリー生命保険会社	(株)ワールドストアパートナーズ	三井住友ファイナンス & リース(株)
(株)阿波銀行	(株)サマンサタバサジャパンリミテッド	Ladies & Maternity Clinic SANTA CRUZ the SYUKUGAWA
第一生命保険(株)		

※人数の多い順に記載

進学先(2009年度)

学校名	人数	学校名	人数
神戸女学院大学大学院 文学研究科	8	大阪大学大学院 人間科学研究科	1
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科	7	神戸大学大学院 国際協力研究科	1
神戸女学院大学大学院 音楽研究科	6	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科	1
大阪大学大学院 文学研究科	2	同志社大学大学院 社会学研究科	1
神戸大学大学院 農学研究科	2	大阪樟蔭女子大学大学院 人間科学研究科	1
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科	2	帝塚山大学大学院 人間科学研究科	1
東京大学大学院 農学生命科学研究科	1	梅花女子大学大学院 現代人間学研究科	1
京都大学大学院 文学研究科	1		

## 年度毎の就職決定状況

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	(2006年3月31日現在) 決定者／ (卒業生－進学者)
2005年度	英文	162	134	132	98.5%	5	84.1%
	総合文化	208	159	155	97.5%	10	78.3%
	音楽	52	18	17	94.4%	6	37.0%
	人間行動	79	58	58	100.0%	7	80.6%
	人間環境	84	62	61	98.4%	9	81.3%
	総計	585	431	423	98.1%	37	77.2%

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	(2007年3月31日現在)
2006年度	英文	170	156	155	99.4%	4	93.4%
	総合文化	242	209	207	99.0%	6	87.7%
	音楽	47	23	21	91.3%	8	53.8%
	人間行動	100	82	81	98.8%	3	83.5%
	人間環境	93	77	77	100.0%	2	84.6%
	総計	652	547	541	98.9%	23	86.0%

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	(2008年3月31日現在)
2007年度	英文	154	145	143	98.6%	3	94.7%
	総合文化	221	204	202	99.0%	1	91.8%
	音楽	49	16	15	93.8%	7	35.7%
	人間行動	107	92	92	100.0%	10	94.8%
	人間環境	82	73	72	98.6%	5	93.5%
	総計	613	530	524	98.9%	26	89.3%

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	(2009年3月31日現在)
2008年度	英文	160	140	139	99.3%	2	88.0%
	総合文化	222	191	186	97.4%	5	85.7%
	音楽	49	26	25	96.2%	6	58.1%
	心理・行動	84	62	61	98.4%	8	80.3%
	環境・バイオサイエンス	91	74	74	100.0%	10	91.4%
	総計	606	493	485	98.4%	31	84.3%

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	(2010年3月31日現在)
2009年度	英文	147	126	108	85.7%	7	77.1%
	総合文化	218	189	163	86.2%	7	77.3%
	音楽	55	26	26	100.0%	8	55.3%
	心理・行動	111	91	82	90.1%	9	80.4%
	環境・バイオサイエンス	83	72	67	93.1%	5	85.9%
	総計	614	504	446	88.5%	36	77.2%

※前期末卒業を含まない 進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

- 神戸女学院中高部  
進学状況は公表していません。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1 2009年度決算の概要

消費収支においては、帰属収入の部は、前年度に比べ、大学入学者増による学生生徒等納付金の増加に加え、元大学教員からの土地・建物の現物寄付や資産運用収入の増加などにより、2億38百万円増の55億60百万円となりました。

消費支出の部は、前年度の例外的な支出増（退職給与引当金の計上方法を期末要支給額の50%から100%に変更したことによる引当金繰入額の増加（8億30百万円））の影響がなくなったこともあり、前年度比7億93百万円減の49億45百万円となりました。

以上により、帰属収支差額は、6億14百万円の収入超過となり、帰属収支差額比率も、11.1%と目標値である8.0%を大きく上回る結果となりました。

また、基本金は、第一体育館耐震補強・改修工事（23百万円）、文学館空調設備工事（24百万円）等の建物支出などにより、1億61百万円を組入れ、当年度の消費収支差額は、4億53百万円の消費収入超過となりました。

ただし、依然として6億21百万円の繰越支出超過があり、継続的な収支均衡には至っていないため、引き続きこの解消に向け努力してまいります。

資金収支においては、収入の部は、大学入学者増による学生生徒納付金収入の増加や資産運用収入の増加など堅調であり、支出の部は、耐震補強や改修等が中心で大規模な建物支出や備品支出はなかったことから、支払資金は、前年度比2億89百万円増の25億88百万円を次年度に繰り越すこととなりました。

#### 2 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表1のとおりとなりました。（本表では、単位未滿を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2009年度の本学院の資金収支計算書の概要について**補正後の予算と対比**しながら以下に記載します。

##### 収入の部

###### 【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、概ね予算どおりの42億62百万円となりました。

###### 【手数料収入】

入学検定料などによる手数料収入は、2010年度入試受験者数が予測を上回ったため、予算比3百万円増の96百万円となりました。

###### 【寄付金収入】

本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教

職員などからの寄付による寄付金収入は、予算比5百万円増の74百万円となりました。なお、資金収支計算書には、現預金の動きを伴わない現物寄付金は含まれていません。

###### 【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費特別補助金の圧縮率が前年度より高かったこともあり、予算比14百万円減の6億19百万円となりました。

###### 【資産運用収入】

運用資産は、定期預金や国債・地方債・政府関係機関債・一部の事業債など、リスク管理に努めながら利回り向上を図り、予算比2百万円増の1億3百万円となりました。

###### 【資産売却収入】

主に、予定していた長期有価証券の入替えによるものです。

###### 【事業収入】

事業収入は、予算どおりの87百万円となりました。主な内容は、学生寮の寮費収入などによるものです。

###### 【雑収入】

雑収入は、主に私学退職金財団からの交付金収入

によるものであり、予算比2百万円増となりました。

#### 【前受金収入】

2010年度の授業料や入学金などの前受金収入は、予算比26百万円増の8億25百万円となりました。これは、2010年度大学入学者数が予算比約20名増加したことによるものです。

#### 【その他の収入】

その他の収入は、予算比8百万円増の2億41百万円となりました。今年度は、退職給与引当金の減少に伴い、退職給与引当特定資産の一部取崩し(47百万円)を行いました。

円)、視聴覚設備改修(5百万円)や中高部1号館空調設備改修工事(3百万円)などへの支出により、ほぼ予算どおりの1億14百万円となりました。

#### 【資産運用支出】

資産運用支出は、ほぼ予算どおりの4億71百万円となりました。内訳としては、主に利回り向上を目的とした長期有価証券の入替え(4億8百万円)や減価償却引当特定資産(50百万円)の積増し分です。

### 支出の部

#### 【人件費支出】

教職員の給与・賞与や退職金の支払いによる人件費支出は、ほぼ予算どおりの31億34百万円となりました。

#### 【教育研究経費支出】

教育研究のために支出した経費は、予算比90百万円の減となりました。主として、業務委託費、修繕費や消耗品支出等ほとんどの科目で予算を下回ったためです。

#### 【管理経費支出】

管理経費は、ほぼ予算どおりの2億83百万円となりました。

#### 【借入金等利息支出】

借入金等利息支出の32百万円は、阪神・淡路大震災復興などを目的とした日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の支払利息額です。

#### 【借入金等返済支出】

前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の契約に基づく約定返済額です。

#### 【施設関係支出】

土地、建物や構築物などへの支出である施設関係支出は、予算どおりの1億69百万円となりました。主に、新宿区土地・建物購入支出(65百万円)に加え、第一体育館耐震補強・改修工事(23百万円)、文学館空調設備工事(24百万円)等の建物支出などです。

#### 【設備関係支出】

教育研究用の機器備品や資産計上する図書などへの支出である設備関係支出は、遠隔同時通訳設備(6百万円)、インターネットテレビ会議設備(5百万

(表1)資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部					
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
学生生徒等納付金収入	4,264	4,262	4,154	108	2009年度大学入学者が対前年比約70人増加したことなどにより、前年比108百万円の増となりました。
手数料収入	93	96	99	△ 3	入学検定料などの手数料収入は、大学志願者が微減に留まったため、前年度3百万円減の96百万円となりました。
寄付金収入	69	74	109	△ 35	前年度は、PTA組織である神戸女学院家庭会、神戸女学院家庭会大学部会による用途指定寄付金の増(32百万円)があったため、今年度は、35百万円の減となりました。
補助金収入	633	619	613	6	私立大学経常費補助金(34百万円)の減などはあったものの、施設整備費補助金の増(42百万円)等により、今年度は6百万円の増となりました。
資産運用収入	101	103	76	27	資産運用収入は、リスク管理を図りながら、債券の構成比を高めるなど、2007年度から行ってきた運用方法の見直しの効果もあり、運用利回りが上昇しました。
資産売却収入	393	393	0	393	今年度の資産売却収入は、主に、利回り向上を目的とした有価証券の入替によるものです。
事業収入	87	87	95	△ 8	主に、学生寮関連の冷蔵庫の入替(6百万円)や照明器具の取替え(1.7百万円)による補助活動収入の減により、前年比8百万円の減となりました。
雑収入	177	179	170	9	主として、前年度に比べ、勤続年数の長い退職者が多かったため、私学退職金財団交付金収入が増加(12百万円)したことによるものです。
前受金収入	799	825	864	△ 39	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入の減は、大学入学者数が前年比約30名減少したことによるものです。
その他の収入	233	241	386	△ 145	今年度は、退職給与引当特定資産の取崩(47百万円)と前期末未収入金収入(140百万円)などです。(前年度は、コスモス引当特定資産の取崩(200百万円)がありました。)
資金収入調整勘定	△ 1,057	△ 1,056	△ 923	△ 133	2009年度大学入学者が2008年度に比べ約70名増加したことによる前期末前受金の増(80百万円)と私学退職金財団交付金収入や補助金収入などの期末未収入金の増(52百万円)によるものです。
前年度繰越支払資金	2,299	2,299	2,900	△ 601	前期末の現金と預金の残高です。
収入の部合計	8,095	8,126	8,547	△ 421	
支出の部					
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
人件費支出	3,126	3,134	3,054	80	主に、勤続年数の長い退職者が多かったことによる退職金支出の増によるものです。
教育研究経費支出	1,266	1,176	1,167	9	ほぼ、前年度並みの支出となりました。
管理経費支出	282	283	308	△ 25	主として、広報関係経費の減や建物関連修繕費の減などによるものです。
借入金等利息支出	32	32	35	△ 3	約定返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	122	122	122	0	約定返済によるものです。
施設関係支出	169	169	351	△ 182	今年度は、新宿区土地・建物一部購入(65百万円、3分の2は寄付)と第一体育館耐震補強・改修工事(23百万円)、文学館空調設備工事(24百万円)などによるものです。
設備関係支出	108	114	181	△ 67	遠隔同時通訳設備(6百万円)、インターネットテレビ会議設備(5百万円)、視聴覚設備改修(5百万円)などの教育研究用機器備品(69百万円)、図書支出(31百万円)などです。
資産運用支出	469	471	982	△ 511	今年度は、利回り向上を目的とした有価証券の入替による支出(408百万円)や減価償却引当特定資産の増(50百万円)などです。(前年度は、主に退職給与引当特定資産の増(758百万円)です。)
その他の支出	166	181	153	28	主に、前払金支払支出の増(14百万円)によるものです。
資金支出調整勘定	△ 118	△ 147	△ 110	△ 37	主に、期末未払金の増(39百万円)によるものです。
次年度繰越支払資金	2,470	2,588	2,299	289	以上の結果、当期末の現金と預金の残高は、前期比289百万円の増加となりました。
支出の部合計	8,095	8,126	8,547	△ 421	

### 3 消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における当年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）・消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表2のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）2009年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

#### 消費収入の部

##### 【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（1億35百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。資産売却差額は、資金収支計算書の固定資産売却収入と異なり、固定資産の売却差益のみであり、今年度は利回り向上を目的とした有価証券の入替えに伴う売却差益と備品の売却差益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、ほぼ予算どおりの55億60百万円となりました。

##### 【基本金組入額】

第1号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ1億29百万円組入れました。（この額は、基本金組入額（1億48百万円）と基本金取崩額（18百万円）の合計です。今年度は、高校・中学部門で除却額が取得額を上回ったため、基本金取崩額を計上しています。）

主な内訳としては、第一体育館耐震補強・改修工事（23百万円）、文学館空調設備工事（24百万円）などの建物関係で40百万円、図書32百万円、施設関係への借入金返済分87百万円などです。

第3号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金

の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ13百万円組入れました。

##### 【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比40百万円増加し、53億98百万円となりました。

#### 消費支出の部

##### 【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（2億35百万円）を控除し、退職給与引当金繰入額（1億86百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金支出の各経費支出に減価償却額（計3億57百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比77百万円減の49億45百万円となりました。

(表2)消費収支計算書

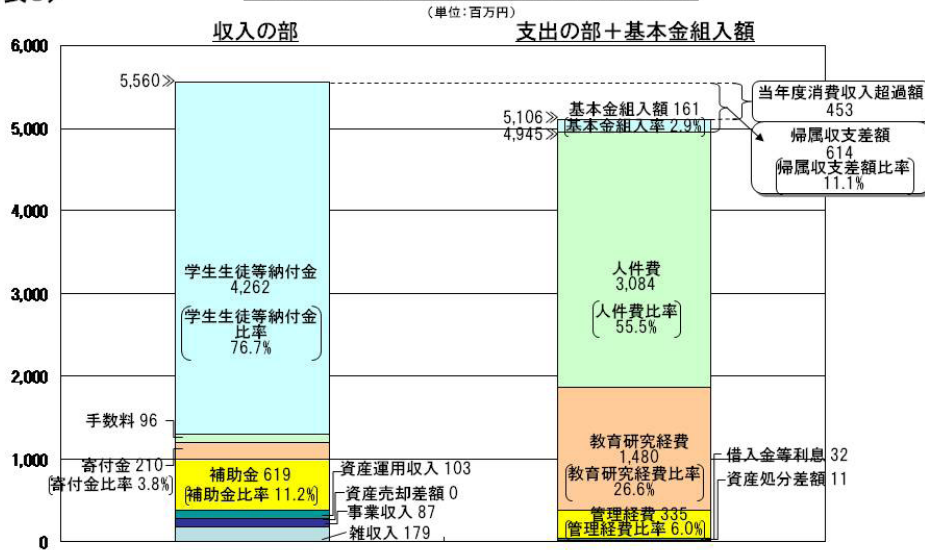
(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
学生生徒等納付金	4,264	4,262	4,154	108	資金収支計算書と同様です。
手数料	93	96	99	△ 3	
寄付金	201	210	112	98	現物寄付金として、本学元教員から土地・建物の寄贈(130百万円)を受けたことなどにより、前年度比98百万円の増となりました。
補助金	633	619	613	6	資金収支計算書と同様です。
資産運用収入	101	103	76	27	
資産売却差額	0	0	0	0	今年度は、有価証券の利回り向上を目的とした入替えによる売却差益と備品の売却差益によるものです。
事業収入	87	87	95	△ 8	資金収支計算書と同様です。
雑収入	177	179	170	9	
帰属収入合計	5,558	5,560	5,322	238	以上の要因により、前期比238百万円の増となりました。
基本金組入額合計	△ 200	△ 161	△ 560	399	今年度は、主に、第一体育館耐震補強・改修工事(23百万円)、文学館空調設備工事(24百万円)などの建物支出等によるものです。(前年度はエミリー・ブラウン記念館の新築などです。)
消費収入の部合計	5,358	5,398	4,761	637	消費収入の部合計は、前期比637百万円増となりました。

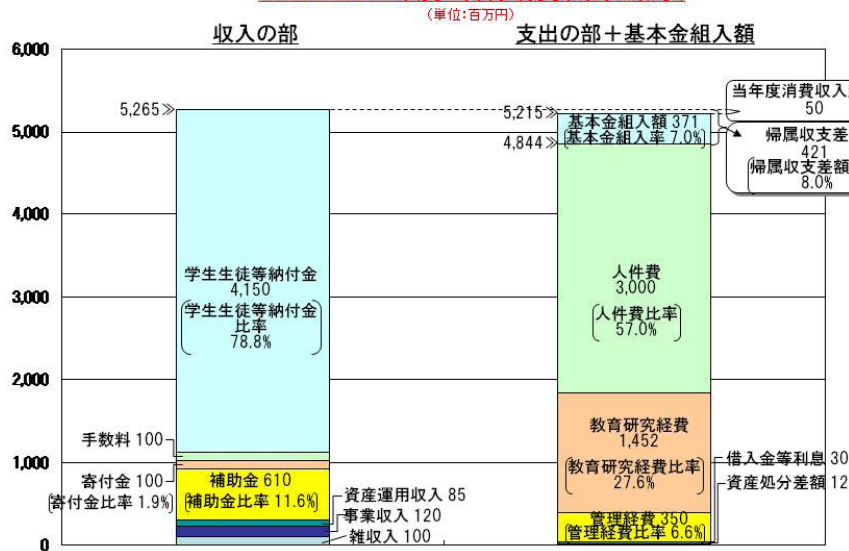
消費支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
人件費	3,076	3,084	3,876	△ 792	前年度は、退職給与引当金の計上方法を期末要支給額の50%から100%に変更したことによる退職給与引当金繰入額の一時的な増(830百万円)があったため、今年度は大幅に減少しました。
教育研究経費	1,571	1,480	1,458	22	資金収支計算書に減価償却費(303百万円)を加算しています。資金収支との違いは、主に2008年度に竣工したエミリー・ブラウン記念館関連等の減価償却費の増(26百万円)によるものです。
管理経費	335	335	360	△ 25	資金収支計算書に減価償却費(52百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	32	32	35	△ 3	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	7	11	6	5	今年度は、大きな設備の除却はありませんでした。
徴収不能額	—	—	1	△ 1	今年度は、徴収不能額はありませんでした。(前年度は、学生生徒等納付金の徴収不能額です。)
消費支出の部合計	5,022	4,945	5,738	△ 793	消費支出の部合計は、前期比793百万円の減となりました。

当年度消費収入 (△支出)超過額	336	453	△ 976	1,429	以上により、当年度の消費収支は、前年度比1,429百万円の増となりました。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,093	△ 1,093	△ 116	△ 977	
基本金取崩額合計	—	18	—	18	今年度は、高校部門と中学部門において除却額が取得額を上回ったことによる第1号基本金からの取崩です。
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 757	△ 621	△ 1,093	472	上記の結果、消費収支差額の部は、前年度より472百万円増加し、621百万円の繰越消費支出超過となりました。
帰属収支差額	536	614	△ 416	1,030	帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いたもので、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となります。(企業会計上の当期利益金にほぼ相当するものです。)前年度の退職給与引当金の掛率変更によるマイナス影響は830百万円です。

(表3) 2009(平成21)年度決算(消費収支)の概要



2008~2012年度 目標消費収支の概要



(表4)消費収支内訳表(2009(平成21)年度)

(単位:百万円)

消費収入の部	科目	部門		
		学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部
学生生徒等納付金		-	3,628	296
手数料		-	90	0
寄付金		-	161	24
補助金		-	405	106
資産運用収入		-	78	12
資産売却差額		-	0	0
事業収入		-	87	-
雑収入		4	126	37
帰属収入合計		4	4,579	477
基本金組入額合計		-	△ 158	△ 1
消費収入の部合計		4	4,420	475

(単位:百万円)

消費支出の部	科目	部門		
		学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部
人件費		48	2,434	360
教育研究経費		-	1,249	114
管理経費		11	294	14
借入金等利息		-	25	3
資産処分差額		-	7	1
消費支出の部合計		60	4,012	495
帰属収支差額		△ 55	566	△ 18
消費収支差額		△ 55	407	△ 19

注)学校法人部門は、昭和55年11月4日付文管企第250号「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について(通知)」により、限定列挙された範囲の取引を計上しています。(いわゆる法人本部業務に係る取引よりも限定された範囲の取引を計上することとなります。例えば、理事会や役員等の庶務に関することなどが該当します。)

## 4 貸借対照表

貸借対照表は、貸借対照表日における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。大科目レベルの貸借対照表は、表5のとおりです。(本表

では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を計算したものと合計は一致しません) 2009年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

(表5)貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部				
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)	増減要因等
固定資産	14,314	14,228	86	
有形固定資産	8,587	8,547	40	
土地	1,205	979	226	本学元教員より現物寄付金として寄贈を受けた土地の増加です。
建物	4,475	4,633	△ 158	主に、減価償却による減少です。
構築物	562	589	△ 27	主に、減価償却による減少です。
教育研究用機器備品	461	489	△ 28	主に、除却による減少です。
その他の機器備品	25	30	△ 5	主に、除却による減少です。
図書	1,856	1,824	32	図書の購入による増加です。
車両	0	0	0	
建設仮勘定	0	—	0	新教育・実験棟(仮称)の地盤調査によるものです。
その他の固定資産	5,727	5,681	46	
教育研究用ソフトウェア	12	—	12	2009年度から会計処理方法の変更により科目が新設されました。
電話加入権	3	3	0	
有価証券	428	412	16	内容は、地方債、政府関係機関債です。
差入保証金	3	4	△ 1	
出資金	27	26	1	
長期貸付金	0	—	0	
貸与奨学金	299	296	3	
退職給与引当特定資産	1,610	1,658	△ 48	将来の退職金の支払を想定した特定資産です。引当金の減少により取崩しました。政府関係機関債や一部の事業債等で運用しています。
減価償却引当特定資産	2,836	2,786	50	減価償却対象資産の将来の更新を目的とした特定資産への積増しによる増加です。政府関係機関債や一部の事業債等で運用しています。
第3号基本金引当資産	503	490	13	第3号基本金に係る資産です。政府関係機関債や銀行預金で運用しています。
流動資産	2,814	2,458	356	
現金預金	2,569	2,299	270	現預金は、前期比270百万円増の2,569百万円となりました。
修学旅行費預り資産	18	—	18	今年度より、現金預金のうち、中高部の修学旅行等の費用分の預り金に対応する額を区分して表示しています。
未収入金	192	140	52	未収入金は、主に補助金や私学退職金財団からの交付金収入です。
短期貸付金	0	0	0	
前払金	32	18	14	前払金は、主に翌年度半期分の教職員通勤手当支給分によるものです。今年度は、システム関連保守費用による増です。
仮払金	1	0	1	
資産の部合計	17,129	16,686	443	以上により、資産の部合計は、前期比443百万円の増となりました。

(単位:百万円)

負債の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
固定負債	2,722	2,883	△ 161	
長期借入金	1,095	1,217	△ 122	日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済による減少です。
退職給与引当金	1,610	1,660	△ 50	主に、勤続年数の長い教職員の退職によるものです。
長期未払金	16	6	10	延払金の増加によるものです。
流動負債	1,189	1,199	△ 10	
短期借入金	122	122	0	借入金の中の1年以内に返済予定のものです。
短期未払金	120	99	21	
前受金	825	864	△ 39	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入の減少は、主として、入学者数が前年比約30名減少したことによるものです。
預り金	103	114	△ 11	
修学旅行費預り金	18	—	18	今年度より、預り金のうち、中高部の修学旅行等の費用分を区分して表示しています。
負債の部合計	3,912	4,083	△ 171	

基本金の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
第1号基本金	12,962	12,832	130	本年度の増加額は、学校法人が保有する固定資産のうち、新たに取得した基本財産を基本金として組入れた金額の合計です。今年度は主として、建物、図書等によるものです。
第3号基本金	503	490	13	奨学基金などに組入れた金額の合計です。
第4号基本金	373	373	0	運営に必要な運転資金として恒常的に保持すべきとされる金額であり、教職員人件費支出、教育研究経費・管理経費支出及び借入金利息支出の1ヶ月分です。増減はありません。
基本金の部合計	13,839	13,696	143	

消費収支差額の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 621	△ 1,093	472	消費収支差額の部は、前年度より472百万円増加し、621百万円の繰越消費支出超過となりました。
消費収支差額の部合計	△ 621	△ 1,093	472	

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,129	16,686	443	

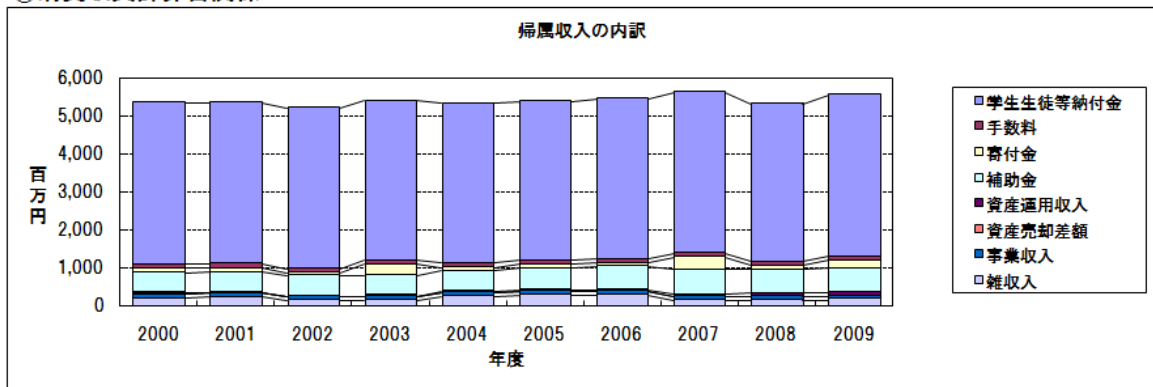
## 5 財務データの推移

過去10年間の消費収支計算書、貸借対照表の概要及び財務諸比率の推移は表6のとおりです。(本表では、消費収支計算書、貸借対照表は、単位未満

を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。また、財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)

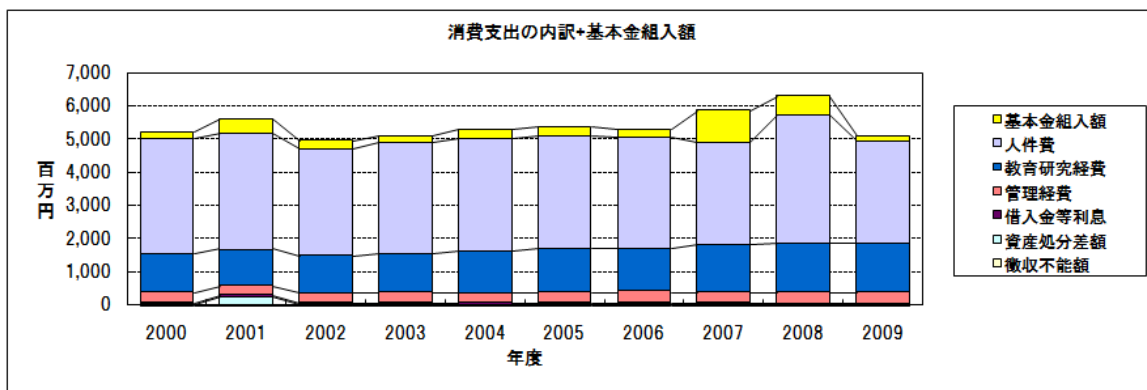
(表6)財務データ推移

### ①消費収支計算書関係



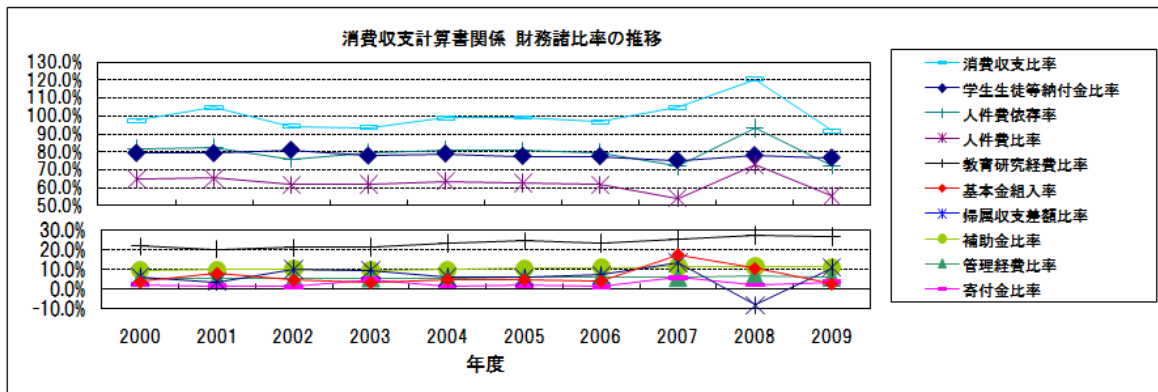
(年度、単位:百万円)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
学生生徒等納付金	4,245	4,245	4,238	4,210	4,220	4,189	4,229	4,245	4,154	4,262
手数料	103	128	111	119	113	104	106	105	99	96
寄付金	131	97	70	270	80	112	73	329	112	210
補助金	515	530	539	530	532	571	605	647	613	619
資産運用収入	24	22	18	23	26	28	37	53	76	103
資産売却差額	25	-	-	-	0	0	0	2	0	0
事業収入	98	100	94	101	101	105	100	102	95	87
雑収入	208	238	160	159	270	284	306	153	170	179
帰属収入合計	5,353	5,364	5,234	5,414	5,347	5,397	5,459	5,640	5,322	5,560
基本金組入額	△ 208	△ 435	△ 250	△ 195	△ 271	△ 274	△ 233	△ 983	△ 560	△ 161
消費収入の部合計	5,144	4,928	4,983	5,219	5,075	5,123	5,226	4,656	4,761	5,398



(年度、単位:百万円)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
人件費	3,469	3,502	3,230	3,353	3,412	3,381	3,374	3,060	3,876	3,084
教育研究経費	1,164	1,085	1,112	1,162	1,243	1,315	1,274	1,428	1,458	1,480
管理経費	306	281	288	307	309	321	351	331	360	335
借入金等利息	59	57	54	51	48	45	42	39	35	32
資産処分差額	13	239	18	13	7	13	17	12	6	11
徴収不能額	-	1	0	0	1	2	-	3	1	-
消費支出の部合計	5,013	5,167	4,704	4,888	5,022	5,078	5,059	4,876	5,738	4,945
帰属収支差額	339	196	529	526	324	319	399	763	△ 416	614
消費収支差額	131	△ 238	278	331	52	44	166	△ 220	△ 976	453



(年度、単位：%)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
人件費比率	64.8%	65.3%	61.7%	61.9%	63.8%	62.6%	61.8%	54.3%	72.8%	55.5%
人件費依存率	81.7%	82.5%	76.2%	79.6%	80.8%	80.7%	79.8%	72.1%	93.3%	72.4%
教育研究経費比率	21.8%	20.2%	21.2%	21.5%	23.3%	24.4%	23.3%	25.3%	27.4%	26.6%
管理経費比率	5.7%	5.2%	5.5%	5.7%	5.8%	6.0%	6.4%	5.9%	6.8%	6.0%
学生生徒等納付金比率	79.3%	79.1%	81.0%	77.8%	78.9%	77.6%	77.5%	75.3%	78.1%	76.7%
寄付金比率	2.5%	1.8%	1.4%	5.0%	1.5%	2.1%	1.4%	5.8%	2.1%	3.8%
補助金比率	9.6%	9.9%	10.3%	9.8%	10.0%	10.6%	11.1%	11.5%	11.5%	11.2%
帰属収支差額比率	6.3%	3.7%	10.1%	9.7%	6.1%	5.9%	7.3%	13.5%	△7.8%	11.1%
消費収支比率	97.5%	104.8%	94.4%	93.7%	99.0%	99.1%	96.8%	104.7%	120.5%	91.6%
基本金組入率	3.9%	8.1%	4.8%	3.6%	5.1%	5.1%	4.3%	17.4%	10.5%	2.9%

【参考】

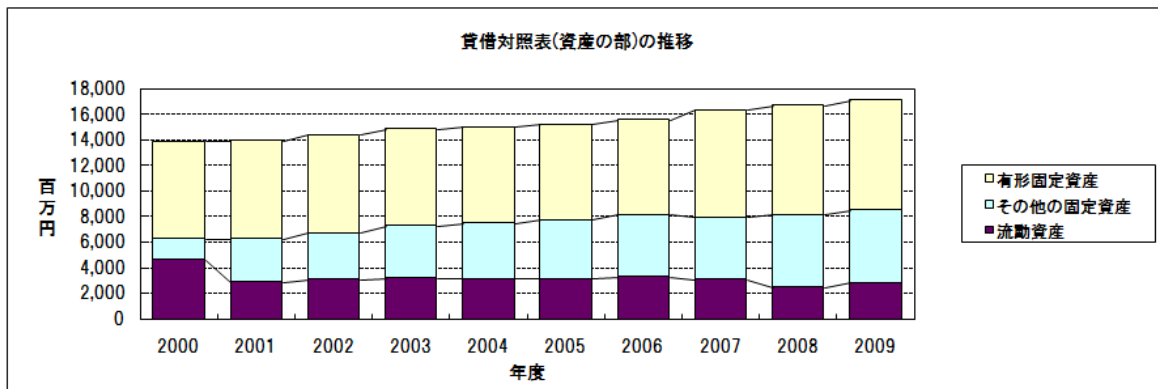
比率名	計算式	考え方	本学院 2009年度	全国平均 2009年度	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
人件費比率	人件費÷帰属収入×100	低い値が良い	55.5%	50.0%	52.8%	52.1%
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金×100	低い値が良い	72.4%	93.1%	72.3%	97.7%
教育研究経費比率	教育研究経費÷帰属収入×100	高い値が良い	26.6%	35.6%	31.0%	34.4%
管理経費比率	管理経費÷帰属収入×100	低い値が良い	6.0%	7.8%	9.9%	8.7%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷帰属収入×100	どちらとも言えない	76.7%	53.7%	73.0%	53.4%
寄付金比率	寄付金÷帰属収入×100	高い値が良い	3.8%	3.3%	2.4%	1.4%
補助金比率	補助金÷帰属収入×100	高い値が良い	11.2%	10.3%	12.5%	12.0%
帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)÷帰属収入×100	高い値が良い	11.1%	0.8%	0.2%	1.2%
消費収支比率	消費支出÷消費収入×100	低い値が良い	91.6%	112.4%	115.0%	109.2%
基本金組入率	基本金組入額÷帰属収入×100	高い値が良い	2.9%	11.7%	13.2%	9.5%

資料：「平成21年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注1：全国平均(531大学法人)、全国平均(医歯系除く)(491大学法人)、同規模平均(107大学法人)は、2008(平成20)年度決算の平均値

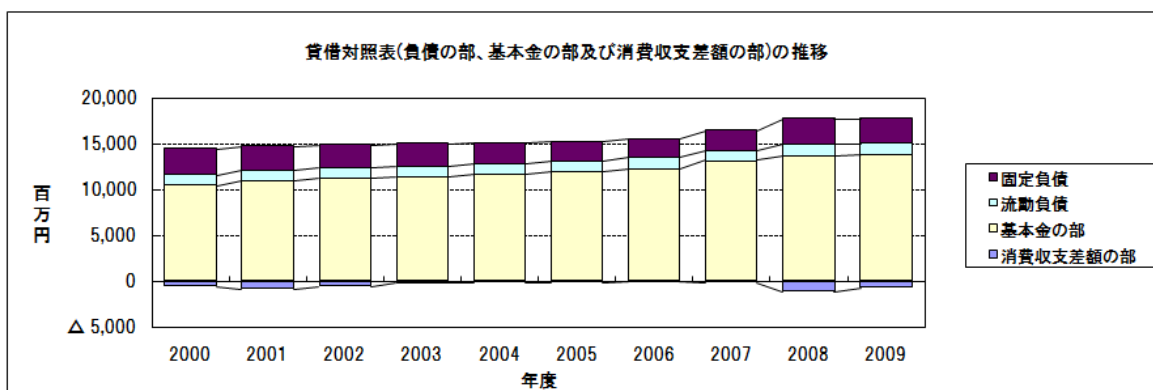
注2：同規模平均は、学生生徒数3～5千人規模の大学法人の平均値

②貸借対照表関係



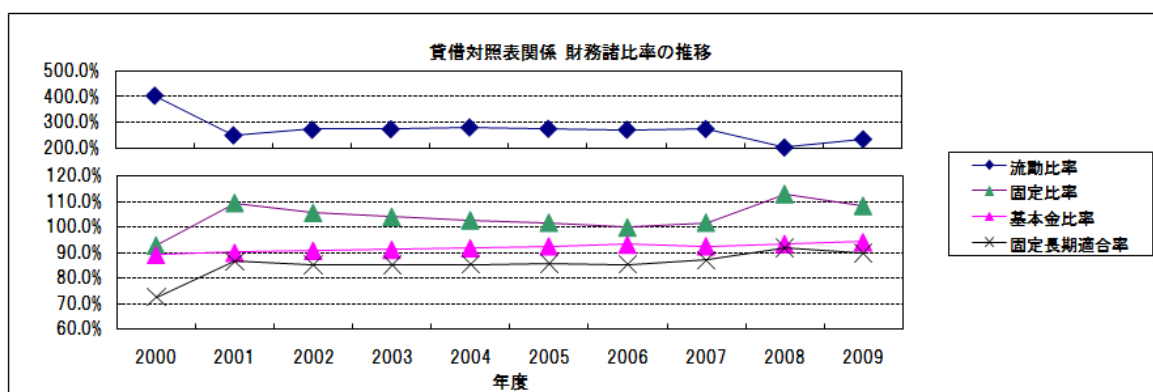
(年度、単位：百万円)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
有形固定資産	7,643	7,742	7,660	7,576	7,525	7,481	7,393	8,359	8,547	8,587
その他の固定資産	1,605	3,373	3,627	4,088	4,324	4,584	4,850	4,895	5,681	5,727
流動資産	4,646	2,874	3,098	3,176	3,146	3,139	3,315	3,067	2,458	2,814



(年度、単位:百万円)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
固定負債	2,786	2,692	2,566	2,476	2,344	2,215	2,090	2,193	2,883	2,722
流動負債	1,150	1,141	1,133	1,153	1,115	1,133	1,213	1,110	1,199	1,189
基本金の部	10,496	10,932	11,183	11,378	11,649	11,923	12,156	13,135	13,696	13,839
消費収支差額の部	△ 537	△ 775	△ 497	△ 166	△ 113	△ 68	98	△ 116	△ 1,093	△ 621
<b>【参考】自己資金 (基本金+消費収支差額)</b>	<b>9,959</b>	<b>10,156</b>	<b>10,685</b>	<b>11,211</b>	<b>11,536</b>	<b>11,855</b>	<b>12,255</b>	<b>13,018</b>	<b>12,602</b>	<b>13,217</b>



(年度、単位:%)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
流動比率	403.9%	251.8%	273.4%	275.3%	282.1%	276.8%	273.2%	276.2%	204.9%	236.6%
固定比率	92.9%	109.5%	105.6%	104.0%	102.7%	101.8%	99.9%	101.8%	112.9%	108.3%
固定長期適合率	72.6%	86.5%	85.2%	85.2%	85.4%	85.8%	85.3%	87.1%	91.9%	89.8%
基本金比率	89.2%	90.1%	90.8%	91.2%	91.8%	92.6%	93.3%	92.6%	93.6%	94.2%

**【参考】**

比率名	計算式	考え方	本学院 2009年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
流動比率	流動資産÷流動負債×100	高い値が良い	236.6%	230.0%	238.6%	281.7%
固定比率	固定資産÷自己資金×100	低い値が良い	108.3%	101.0%	99.4%	98.0%
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金+固定負債)×100	低い値が良い	89.8%	91.6%	91.8%	89.5%
基本金比率	基本金÷基本金要組入額×100	高い値が良い	94.2%	96.6%	96.8%	96.9%

資料:「平成21年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注1:全国平均(531大学法人)、全国平均(医歯系除く)(491大学法人)、同規模平均(107大学法人)は、2008(平成20)年度決算の平均値

注2:同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

## IV. 事業計画

### 1 今後の運営方針及び2010年度予算編成について

神戸女学院は、建学の精神であるキリスト教精神と国際理解を基本に、豊かな自然とヴォーリズ校舎が調和する美しい岡田山のキャンパスにおいてリベラルアーツ&サイエンスによる時代に即した全人教育を実践しています。この教育の質と環境をさらに向上・発展させるために有効な事業計画を逐次実施すると共に、その持続性を支援するために財務基盤の強化を図ってまいります。

昨年（2008年）度は退職給与引当金の引当率引き上げを行い、単年度で10億円弱の消費支出超過を計上、繰越消費支出超過は約11億円となり、会計処理の変更によるものとは言え正味資産の減少を招く結果となりました。今年（2009年）度は大学において予想を上回る入学者があり学納金が増収に、また寄附金においても大口の現物（不動産）寄附を受け入れ、さらに資金運用面でもここ数年実施してきた運用見直しにより着実に増収基調が続いています。その結果2009年度は当初予算に比べ消費収支の好転が見込まれ、財政面はやや回復基調となっています。

2010年度は、このような財政的背景と翌年（2011年）度に新校舎の建設を計画していることをふまえ、財務体質の強化に重点を置き、引き続き経費の見直し、無駄の排除、選択と集中を推進し

繰越消費支出超過額の縮小に努める方針です。数値的には、2008年度に策定した「主要財務比率の目標値」に極力沿うように予算を編成することとします。

具体的な事業計画として、教育・研究面では、英文学科のカリキュラム改革、環境・バイオサイエンス学科の中・高理科教職課程の開設、大学院人間科学研究科の「女性環境リーダー育成コース」の開設と同コースへのアジア・アフリカ地域からの留学生受け入れ、大学のGP補助事業終了後の見直しと事業継続などを重点項目として実施してまいります。

また、大学の入学定員について、より実態に即すため、2011年度からの定員増申請を予定しています。

施設・設備面では、キャンパスのバリアフリー化を推進し、施設・設備の長期整備計画に基づく校舎の耐震化、岡田山移転当初のヴォーリズ校舎の整備改修（エコ対策を含む）を順次実施してまいります。

### 2 2010年度事業計画

#### 教育・研究

#### a) 文学部「英文学科新カリキュラム実施」

1年次から4年次へMastery, Advancement, Specialization, Integrationの段階を踏んだカリキュラムを構成することにより正確な英語運用能力と専門知識の修得を目指します。

#### b) 人間科学部「中学校教諭1種普通免許状「理科」・高等学校教諭1種普通免許状「理科」教職課程開設」

2010年度入学者より、中学校教諭1種普通免許状「理科」・高等学校教諭1種普通免許状「理科」教職課程を開設します。

#### c) 全学部「早期離職に歯止めをかけるキャリア支援」

平成21年度学生支援推進プログラム選定事業第

2年次計画を実施します。

（補助金申請額8百万円）

#### d) 人間科学部「地域からESDを推進する女性環境リーダー」

平成21年度科学技術総合推進費補助金選定事業第2年次計画を実施します。（補助金申請額17百万円）

#### e) 音楽学部「音大連携による教育イノベーション 音楽コミュニケーション・リーダー養成に向けて」

平成21年度大学改革推進等補助金選定事業第2年次計画を実施します。

（補助金申請額9百万円）

#### f) 全学部「キャリアデザインプログラム」の継続

## 実施

現代GPの選定期間は昨年度で終了しましたが、本学院の事業としては継続実施します。

### g) 人間科学部「地域創りリーダー養成プログラム」の継続実施

現代GPの選定期間は昨年度で終了しましたが、本学院の事業としては継続実施します。

## その他の事業

### a) 音楽学部「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」の実施

音楽学科舞踊専攻学生の年度学習の成果発表としての「舞踊年度公演」、4年間の習得の総まとめとしての「舞踊卒業公演」を実施します。

### b) 大学「翻訳コンクール」実施

高校生を対象とした「翻訳コンクール」を実施します。

## 施設・設備

### a) 音楽学部1号館耐震補強・空調設備改修

これまで旧耐震基準前の校舎の耐震補強工事を順次実施してきており、本年度は音楽学部1号館の工事を行います。また、当該工事に併せて、空調設備の改修等を実施します。

### b) 文学部2号館・デフォレスト記念館エレベーター設置工事

大学建物のバリアフリー推進対策として、文学部2号館とデフォレスト記念館にエレベーターを設置します。

### c) 新教育・実験棟（仮称）設計・調査及び既存倉庫取壊

教職課程設置等に伴う環境・バイオサイエンス学科の実験施設の拡充及び人間科学部での地域協働プロジェクト用施設の建設に伴い、今年度は設計・調査費用及び建設予定地に立地する既存倉庫の取壊しを予定しています。

### d) 建物等の改修

文学館L-25・26教室の机と椅子の入替えを行います。また、オルチン記念館空調設備改修、文学館・図書館系統の熱源改修、新社交館電気室高圧機器取替や同館トイレ改修、及び中高部1号館の壁面塗装・サッシ改修、タルカット館展示ホール等湿

気対策工事等を実施します。

### e) 情報処理・視聴覚関係

更新期を迎えた大学L-3・7・8・10・25・26等教室の視聴覚設備や中高部図書室のパソコン等設備の改修・更新を行います。

### f) その他教育研究機器関係

茶室（松風庵）へのエアコンの設置や中高部では、会議室の机・椅子の入替えや医務室シート・毛布類の入替えを実施します。

## 3 2010年度予算書

2010年度の資金収支予算書は表7、消費収支予算書は表8のとおりです。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。)

(表7)資金収支予算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	2009年度 予算	2009年度 決算(A)	2010年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2010年度当初予算の内容
学生生徒等納付金収入	4,264	4,262	4,220	△ 42	2010年度入試による入学人数630名と見込み、前年度比42百万円減の予算としています。
手数料収入	93	96	91	△ 5	厳しい大学入試環境を考慮し、前年度比微減の予算としています。
寄付金収入	69	74	72	△ 2	寄付金収入は、主として教育振興会を通じての一般寄付を計上しました。
補助金収入	633	619	603	△ 16	私立大学経常費補助金はIT関連の算定方法変更による減に加え、GP関連補助金の終了等により減少を見込んでいます。
資産運用収入	101	103	110	7	2007年度から行っていた運用方法の見直しは2009年度で一応完了し、金利水準も低いことから、利回り押し上げ要因は小さいものと見込んでいます。
資産売却収入	393	393	—	△ 393	2010年度は有価証券の入替え等は予定していません。
事業収入	87	87	95	8	
雑収入	177	179	88	△ 91	2010年度末の定年退職者のみを前提に予算計上しているため、私学退職金財団の交付金収入は前年度比減少の予算となりました。
前受金収入	799	825	801	△ 24	2011年度入学人数を630名として予算化しています。
その他の収入	233	241	238	△ 3	
資金収入調整勘定	△ 1,057	△ 1,056	△ 913	143	
前年度繰越支払資金	2,299	2,299	2,470	171	
収入の部合計	8,095	8,126	7,877	△ 249	

支出の部					
科 目	2009年度 予算	2009年度 決算(A)	2010年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2010年度当初予算の内容
人件費支出	3,126	3,134	2,978	△ 156	2010年度は、人事院勧告を踏まえた給与の改定に加え、2010年度定年退職者のみを前提に退職金支出を計上しているため、減少の予算となっています。
教育研究経費支出	1,266	1,176	1,170	△ 6	ほぼ前年度並みの予算を計上しています。
管理経費支出	282	283	276	△ 7	ほぼ前年度並みの予算を計上しています。
借入金等利息支出	32	32	29	△ 3	約定返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	122	122	122	0	
施設関係支出	169	169	199	30	音楽学部1号館耐震補強やエレベーター設置などのバリアフリー化工事に加えて、エコ・老朽化対策工事(中高部1号館のサッシ取替え)などを予定しています。
設備関係支出	108	114	99	△ 15	図書支出30百万円、実験機器18百万円、エアコン取替6百万円、AV機器6百万円、中高部会議室テーブル・椅子等更新5百万円などの外、比較的少額の備品支出を計上しています。
資産運用支出	469	471	302	△ 169	2010年度は、減価償却引当特定資産の増し(300百万円)を予定していません。
その他の支出	166	181	171	△ 10	
資金支出調整勘定	△ 118	△ 147	△ 117	30	
次年度繰越支払資金	2,470	2,588	2,645	57	
支出の部合計	8,095	8,126	7,877	△ 249	

(表8)消費収支予算書

(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	2009年度 予算	2009年度 決算(A)	2010年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2010年度当初予算の内容
学生生徒等納付金	4,264	4,262	4,220	△ 42	費付金に現物費付が含まれることを除き、資金収支計算書と同様です。
手数料	93	96	91	△ 5	
寄付金	201	210	73	△ 137	
補助金	633	619	603	△ 16	
資産運用収入	101	103	110	7	
資産売却差額	0	0	-	0	
事業収入	87	87	95	8	
雑収入	177	179	88	△ 91	
帰属収入合計	5,558	5,560	5,281	△ 279	以上の要因により、2009年度比279百万円の減を見込んでいます。
基本金組入額合計	△ 200	△ 161	△ 325	△ 164	主として、音楽学部1号館耐震補強やエレベータの設置等のバリアフリー化工事などに伴う基本金組入を予定しています。
消費収入の部合計	5,358	5,398	4,956	△ 442	消費収入の部は前年度比442百万円減の4,956百万円を見込んでいます。

消費支出の部					
科 目	2009年度 予算	2009年度 決算(A)	2010年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2010年度当初予算の内容
人件費	3,076	3,084	2,946	△ 138	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,571	1,480	1,467	△ 13	資金収支計算書に減価償却費(297百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	335	335	328	△ 7	資金収支計算書に減価償却費(52百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	32	32	29	△ 3	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	7	11	12	1	
消費支出の部合計	5,022	4,945	4,782	△ 163	以上の要因により、前年度比163百万円減の4,782百万円を見込んでいます。

当年度消費収入 (△支出)超過額	336	453	173	△ 280	これにより、2010年度の消費支出超過額は、173百万円の収入超過を予定しています。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,093	△ 1,093	△ 757	336	
基本金取崩額合計	-	18	-	△ 18	
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 757	△ 621	△ 583	38	

帰属収支差額	536	614	498	△ 116	
--------	-----	-----	-----	-------	--



学校法人 神戸女学院

---

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 電話 0798-51-8508(経理課)

<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>